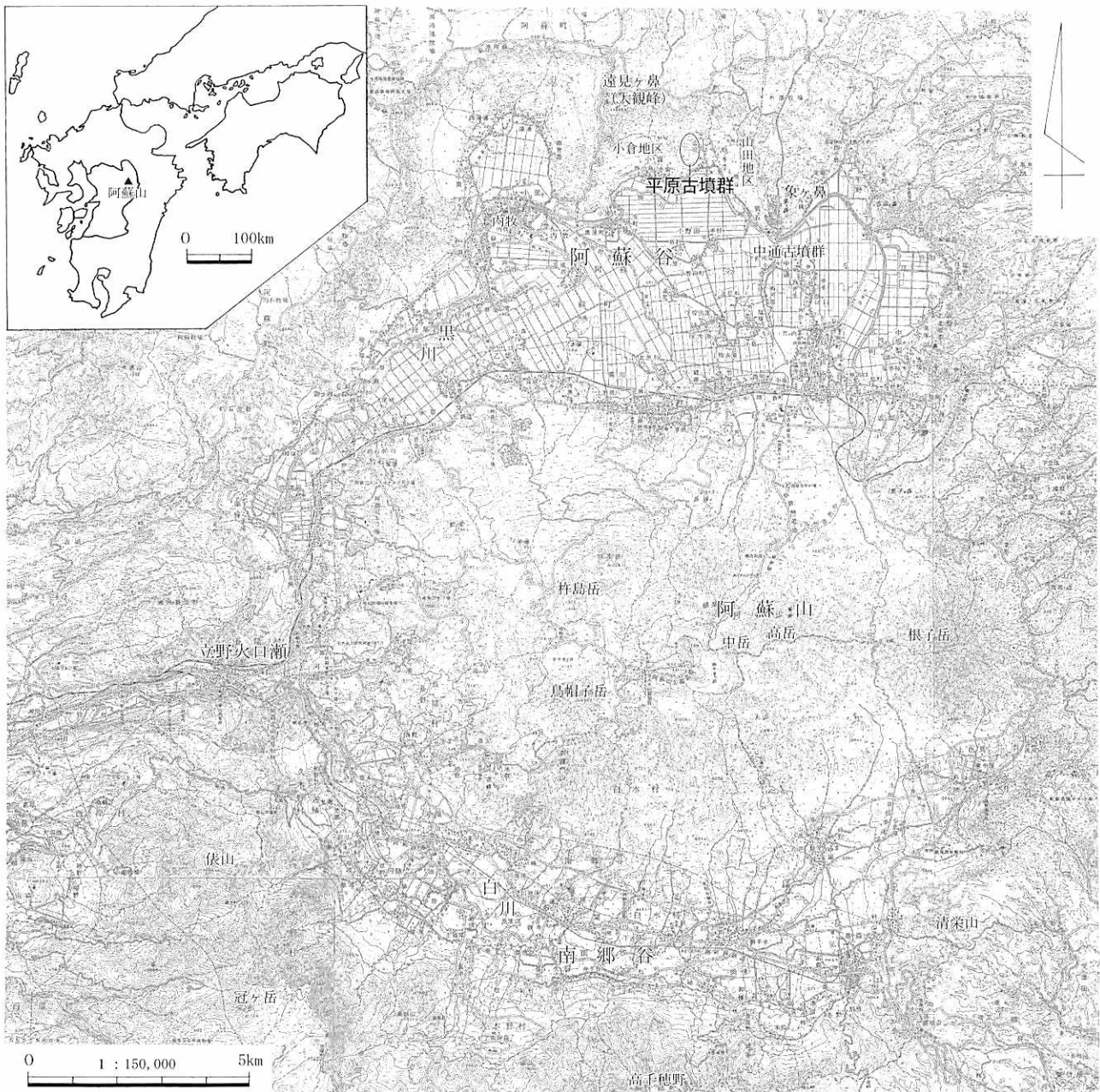


## 一 位置と環境

### 1. 地理的環境（第1図）

**阿蘇の自然** 阿蘇地方は、熊本県北東部から大分県西部・宮崎県北西部までを指し、九州本島中央部に位置する阿蘇山を中心とした地域である。

阿蘇山は阿蘇カルデラ内で現在も活動を続ける中岳を中心とした火山群を指す。阿蘇カルデラは東西約 18 km、南北約 25 km、面積は約 380 km<sup>2</sup> という世界最大級のものである。中央火口丘群、標高 400 ~ 500 m の広大なカルデラ床、それらを取り囲むように外輪山があり、外輪山の外側には標高 700 ~ 800 m の高原地帯が広がっている。カルデラ床は広い水田地帯になっており、外輪山の外側では赤牛の放牧がなされている。中央火口丘群はほぼ東西に並んでおり、そのうち<sup>ねこだけ たかだけ</sup>根子岳・高岳・中岳・



第1図 阿蘇地域の地形と平原古墳群の位置

## 一 位置と環境

烏帽子岳・杵島岳の5つは阿蘇五岳と呼ばれる。カルデラ内は中央火口丘群を境にして、北側の阿蘇谷、南側の南郷谷に分かれている。阿蘇谷には黒川が、南郷谷には白川がそれぞれ西に向かって流れている。この2つはカルデラの西側の南阿蘇村（旧長陽村）戸下で合流し、白川となる。そして、白川はカルデラの切れ目である立野火口瀬を通り、熊本平野に流れ出て、有明海に注いでいる。

阿蘇地方は四季を通して気候の変化が激しい。1月と8月の平均気温の差は20℃以上あり、夏は涼しいのに対し、冬の寒さは厳しく、梅雨時期の降水量が非常に多い。この降水量の多さが阿蘇の潤沢な水資源を支えている。さらには阿蘇への降水が伏流水となり、熊本市の地下水を賄っている。

阿蘇は2014年9月23日に国連教育科学文化機関(ユネスコ)が支援する世界ジオパークネットワーク(GGN)への加盟が認定された。阿蘇火山の大地の成り立ちと人間生活の関わりに対する理解を深めることを阿蘇ジオパークの大きなテーマとし、阿蘇ジオパーク推進委員会などによって、ジオツアーの開催や広報活動、環境保全など活発な活動が行われている。

**阿蘇の成り立ち** 鮮新世(約520万年前～160万年前)の初期から更新世(約160万年前～1万年前)後半にかけて、阿蘇地方には活火山が多数存在した。これらはカルデラ形成の原因である阿蘇外輪火山だが、現在の外輪山とは異なるものとされている。鞍岳・尾ノ岳・遠見ヶ鼻(大観峰)・清栄山・高千穂野・冠ヶ岳・俵山は火山活動後に残った阿蘇外輪火山の一部である。阿蘇外輪火山では約27万年前・14万年前・12万年前・9万年前の4回にわたり大規模な火砕流活動が起きた。その度に阿蘇外輪火山は大量の火砕流堆積物を噴出した。これらの火砕流活動にともなう数回の陥没運動と断層運動を繰り返した結果、現在のような阿蘇の広大なカルデラが形成された。カルデラ内には雨水が溜まり、過去3回カルデラ湖が形成された。これらは、古いものから順に古阿蘇湖・久木野湖・阿蘇谷湖と呼ばれる。古阿蘇湖は立野火口瀬から水が流出したことで消滅した。また、一度開いた立野火口瀬を溶岩がせき止めて、南郷谷側には久木野湖、阿蘇谷側には阿蘇谷湖が生じた。久木野湖は約4万年前に消滅し、阿蘇谷湖は縄文時代早期頃まで存在していたと考えられている。

**平原古墳群** カルデラには、「鼻」と呼ばれる外輪山の突出部によっていくつかの円弧が形成されており、その外輪円弧に沿って黒川が西に流れている。平原古墳群を含む阿蘇谷の古墳は、外輪円弧と黒川流域間に集中して分布している。平原古墳群は遠見ヶ鼻(大観峰)と象ヶ鼻に挟まれる尾根上、標高500～530mに位置し、東・西はそれぞれ山田地区・小倉地区となっている。また、平原古墳群の南東には、長目塚古墳を中心とする中通古墳群が存在する。中通古墳群は、阿蘇地方最大の古墳群で、熊本県全域を通しても最も重要な古墳群の1つである。樹木がなければ平原古墳群から視認することが可能である。

**地質** カルデラや中央火口丘群周辺には、厚い堆積物が分布している。この堆積物は噴火にともなう火山灰を中心とした火山噴出物からなっている。このように、阿蘇地方の地層は、火山灰を主な成分として、最上層から黒ボク土層、アカホヤ層、ローム層、始良丹沢火山灰層という順に積み重なっている。また、中央火口丘群の岩石は多種多様であるが、大部分が輝石安山岩である。阿蘇外輪山の上層は阿蘇外輪火山の噴出物で構成され、それより下層は阿蘇外輪火山よりも古い火山体、もしくは、その噴出物によって構成されている。

阿蘇谷の二辺塚から赤水付近一帯には「阿蘇黄土」と呼ばれる地層が分布している。「阿蘇黄土」は一般的に褐鉄鉱(リモナイト)と呼ばれるが、これらは焼成による化学反応で酸化鉄へ変化する。その赤い発色から弥生時代よりベンガラとして利用されてきた。また戦前の鉄不足のときには、鉄鉱石の代用品として製鉄の材料に利用されたことも知られている。(大隈)

## 2. 歴史的環境

### (1) 阿蘇の歴史

**旧石器時代** 旧石器時代の阿蘇地域にはカルデラ湖が存在していた。そのため、旧石器時代の遺跡は外輪山上部に点在する。カルデラ周辺では湧水や石器石材の露頭が確認されるため、それらの遺跡は石材を採取する人々のキャンプ地であったと推測されている。

**縄文時代** 縄文時代に入るとカルデラ湖の水位が低下した。長年の断層運動と河川の浸食作用により現在の立野火口瀬付近に切れ目が生じたためである。しかし、カルデラ内部には依然として湿地が広がっていたことから、縄文時代の遺跡はカルデラ内でも比較的標高の高い470～480 m付近ならびに外輪山斜面の520～740 m付近に分布する。

土器は、縄文時代草創期から晩期までのものが確認されており、縄文時代の全時期を通して阿蘇地域で人々が活動していたことがわかる。また、九州のみならず瀬戸内とのつながりの強い遺物が出土することから、この地に各地の人々が集まり活動していた様子がうかがえる。九州の中央に位置し、各方面へ流れる河川の水源地が存在する阿蘇の地理的環境を反映したものであろう。ただし、阿蘇地域固有の土器型式は確認されていない。

**弥生時代** 弥生時代になると人々はカルデラ内への進出をすすめ、遺跡は標高400～500 mの外輪山山麓や黒川の自然堤防上などにも分布する。遺跡数は中期以降、特に後期に入ってから大幅に増加する。弥生時代中期の遺跡である阿蘇市西小園前田遺跡<sup>にしこぞの</sup>では石包丁が出土した。このことから遅くともこの時期には阿蘇谷において稲作がはじまっていたことがわかる。

弥生時代の遺跡は阿蘇谷西側に多く分布する。要因は阿蘇谷西側で産出する褐鉄鉱（リモナイト）である。人々は褐鉄鉱から当時貴重であったベンガラをつくり、ベンガラを交易用の品として用いたと考えられている。さらに、阿蘇地域では多量の鉄製品が出土することから、褐鉄鉱を鉄の原料として用いた可能性も指摘されている。しかし、当時の技術で褐鉄鉱から鉄をつくることができたのかは検討の余地が残る。

**古墳時代** 古墳時代に入ると阿蘇谷東側に古墳が集中して築造されるようになる。要因は、水稻に適した阿蘇谷東側での生産力の向上が考えられる。集落跡も阿蘇谷東側に存在することが予想されるが、詳しい調査が行われていないため詳細は不明である。

古墳築造の動向について述べると、まず前期には弥生時代より継続して箱式石棺や方形周溝墓が築造される。阿蘇市村下石棺はこの時期に築造された箱式石棺で、棺外で出土した二重口縁壺は直立して置かれていた。中期に入ると大規模な墳丘をもつ円墳や前方後円墳が築造されるようになる。阿蘇市長目塚古墳は阿蘇谷最大の前方後円墳で、前方部石室から仿製内行花文鏡・鉄刀・鉄鏃・玉類などの副葬品が出土した。壺形埴輪や円筒埴輪も多数出土したことから今回発掘調査を行った平原6号墳出土の壺形埴輪との関係性を見るうえで重要な古墳といえよう。後期になると、阿蘇地域の古墳は主体部が横穴式石室になるとともに墳丘の規模が縮小し、さらに横穴の築造もはじまる。阿蘇市上御倉古墳<sup>かみみくら</sup>・下御倉古墳<sup>しもみくら</sup>はこの時期を代表する横穴式石室墳である。また、阿蘇市迎平6号墳<sup>むかえびら</sup>からは同型鏡として知られる環状乳画文帯神獸鏡が出土している。同じく阿蘇市に所在する城山横穴群では14基以上の横穴が確認されている。

**奈良時代以降** 肥後国の成立にともない阿蘇郡が設置され、郡司を阿蘇国造であった阿蘇氏がつとめた。郡衙は現在の阿蘇市一の宮町役犬原地区<sup>やくいんぼる</sup>に設置されていたと考えられている。のちに阿蘇氏は大宮司職を称し、古代から中世の肥後国において菊池氏と並ぶ勢力を誇るようになった。（竹村）



(2) 九州の方墳・方形周溝墓・前方後方墳（第2～4図、第1～14表）

第五章で述べるように、今年度の測量調査の結果、平原3号墳が方墳である可能性が生じた。周辺地域の方墳に関する情報を得ようとしたが、九州の方墳集成はこれまで行われておらず、九州における方墳の様相は十分に把握されているとはいえない。そこで九州における方墳、さらには方形周溝墓、前方後方墳を加えての集成を行い、分布図を作成した。その結果をふまえ、九州の方墳・方形周溝墓・前方後方墳についての概要を述べていきたい。

時期については、古墳時代前期を前方後方墳集成編年（広瀬 1991）（以下、集成編年とする）1～4期前半、中期を4期後半～8期、後期を9～10期、終末期を10期以降とする。

**筑前地域** 方墳（方形墓）は、弥生時代後期～終末においてほとんど確認されない。しかし、古墳時代前期に福岡平野を中心に急激に増加し、<sup>のおがた</sup>直方平野でも確認されはじめる。中期になると築造数はさらに増加するが、それは集成編年6～10期の間に福岡県新宮町相島積石塚群で、<sup>しんぐうまちあいのしま</sup>方墳56基が築造されているためである。後期においては減少し、終末期になるとさらに減少する。方形周溝墓は弥生時代後期～終末から福岡平野を中心に確認され、古墳時代前期にさらに増加する。中期になると激減し、後期以降は確認されなくなる。前方後方墳は、福岡市宮の前遺跡の1基が福岡平野の沿岸部において弥生時代後期～終末に確認される。その後、古墳時代前期に福岡平野内陸部でも確認されることが目立つ。中期以降は確認されない。福岡市妙法寺古墳群では、方墳・方形周溝墓・前方後方墳すべてが確認され、九州のなかでは当古墳群においてのみ見られる例である。

**筑後地域** 方墳は筑前地域と同様、弥生時代後期～終末にはほとんど確認されない。古墳時代前期に筑紫平野北部と東部において増加する。中期には減少し筑紫平野東部のみで確認され、後期以降は確認されなくなる。方形周溝墓は、筑紫平野北部において弥生時代後期～終末から確認され、古墳時代前期に増加し、矢部川中流域でも確認される。中期より後は確認されない。前方後方墳は筑紫平野北部の福岡県うきは市竹重遺跡1号墳のみが確認され、集成編年1～4期に位置づけられる。

**肥前地域** 方墳は筑紫平野西部において古墳時代前期から確認される。その後、中期には減少するものの、後期から終末期にかけて筑紫平野北西部において増加していく。方形周溝墓は筑紫平野北部において弥生時代後期～終末から確認され、古墳時代前期に筑紫平野西部において急増する。中期には減少し、後期以降には確認されなくなる。前方後方墳は、筑紫平野北部で古墳時代前期において確認される。佐賀県吉野ヶ里町吉野ヶ里遺跡では、集成編年1～4期に方形周溝墓3基と前方後方墳3基が築造されている。

**対馬地域** 方墳はすべて古墳時代終末期において確認される。当地域において方形周溝墓は確認されない。前方後方墳は、集成編年5～6期に位置づけられる長崎県対馬市出居塚古墳のみである。方墳・前方後方墳ともに対馬南部に築造されている。

**肥後地域** 方墳は、弥生時代後期～古墳時代終末期にかけてきわめて少なく、古墳時代前期と後期末～終末期に確認されるのみである。古墳時代前期は菊池川流域において確認され、後期末～終末期では宇土半島基部に築かれた椿原古墳が知られている。方形周溝墓は弥生時代後期～終末から菊池川中流域と熊本平野南部において確認されており、古墳時代前期に急増する。前期では緑川中流域と阿蘇山付近においても確認されはじめる。その後、中期まで続き後期以降には全く確認されなくなる。熊本市塚原古墳群では63基もの方形周溝墓が築造されている。その中で時期の明らかな3・6・8・18号墳は古墳時代前期～中期に位置づけられ、15号墳は中期に位置づけられる。当地域において前方後方墳は確認されていない。



**豊前地域** 方墳は、中津平野東部において古墳時代前期から確認されるが、増加せずに中期には減少していく。その後、中津平野北部において後期～終末期にかけて増加していく。方形周溝墓は、中津平野において弥生時代後期～終末から確認され、古墳時代前期に増加し中期には減少、後期では確認されない。前方後方墳は、福岡県みやこ町川ノ上遺跡1号墳の時期が明らかであり、集成編年1期に位置づけられる。同県同町徳永川ノ上遺跡では、方墳と前方後方墳が築造されている。

**豊後地域** 方墳は、古墳時代前期から駅館川・玖珠川・大野川流域において確認され、中期まで続くが後期においては確認されない。中期においては玖珠川・番匠川流域において確認される。終末期には大分平野に大分市古宮古墳が築造されている。方形周溝墓はくじゅう連山付近において古墳時代前期から確認され、大野川流域で中期まで続くが、後期以降は確認されない。大分県日田市草場第2遺跡では20基の方形周溝墓が確認され、5・13号は集成編年5～6期、11・12号は集成編年7期に位置づけられる。前方後方墳は1基のみ確認されており、くじゅう連山にある大分県竹田市ぶつばるせんじんづか1号墳が集成編年1期に位置づけられる。

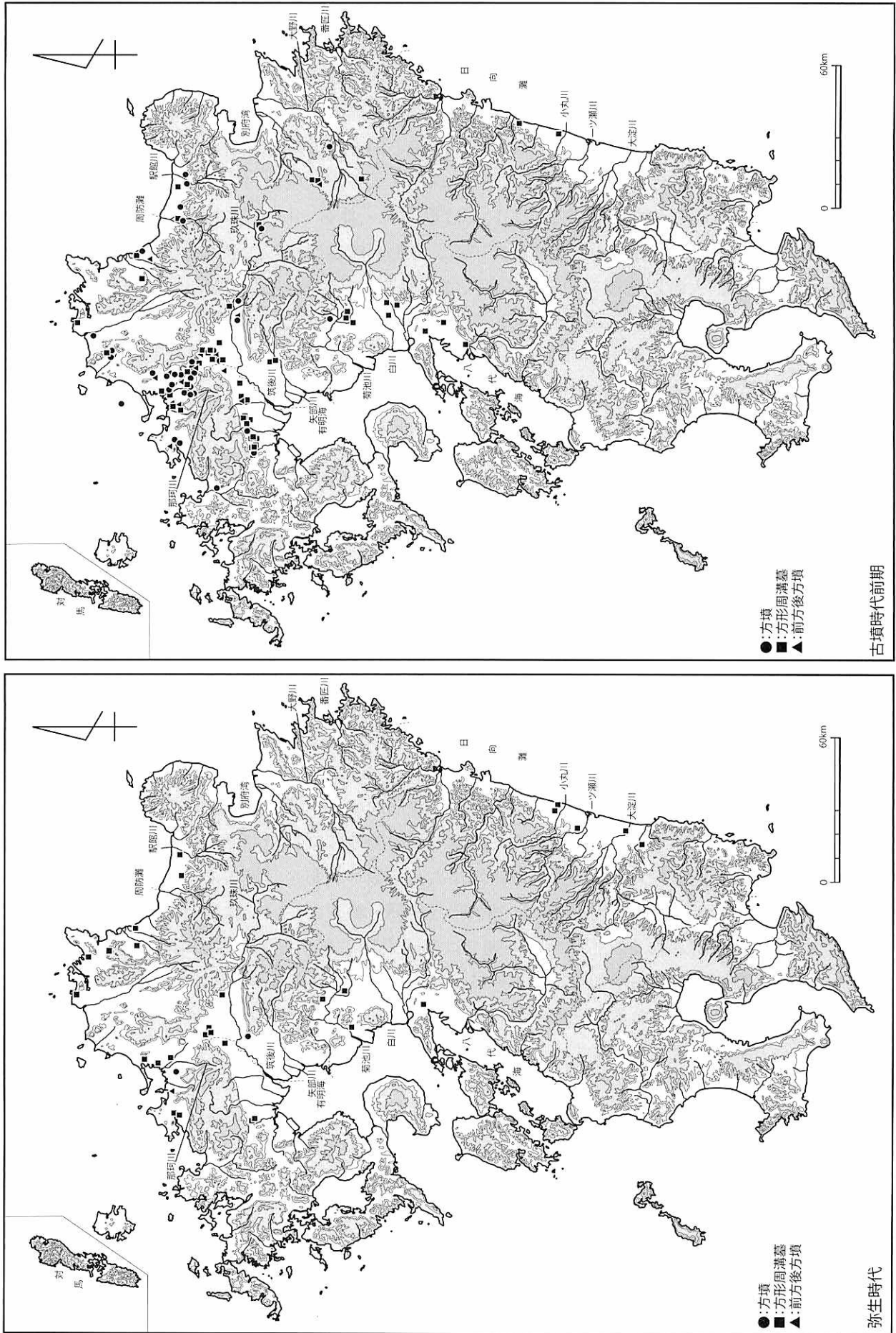
**日向地域** 九州のなかで当地域においてのみ、方墳が古墳時代中期から確認される。その後、終末期にかけて増加していく。方墳は主に宮崎平野において確認されるが、古墳時代終末期に位置づけられる宮崎県都城市高崎塚原古墳群20号墳は、都城盆地に築造されている。弥生時代後期～終末から主に小丸川・一ツ瀬川・大淀川流域などの河川流域から確認される方形周溝墓は古墳時代前期まで続くが、中期以降は確認されない。また、前方後方墳は確認されていない。

**壱岐・薩摩・大隅地域** 当該地域において、方墳・方形周溝墓・前方後方墳は確認されていない。

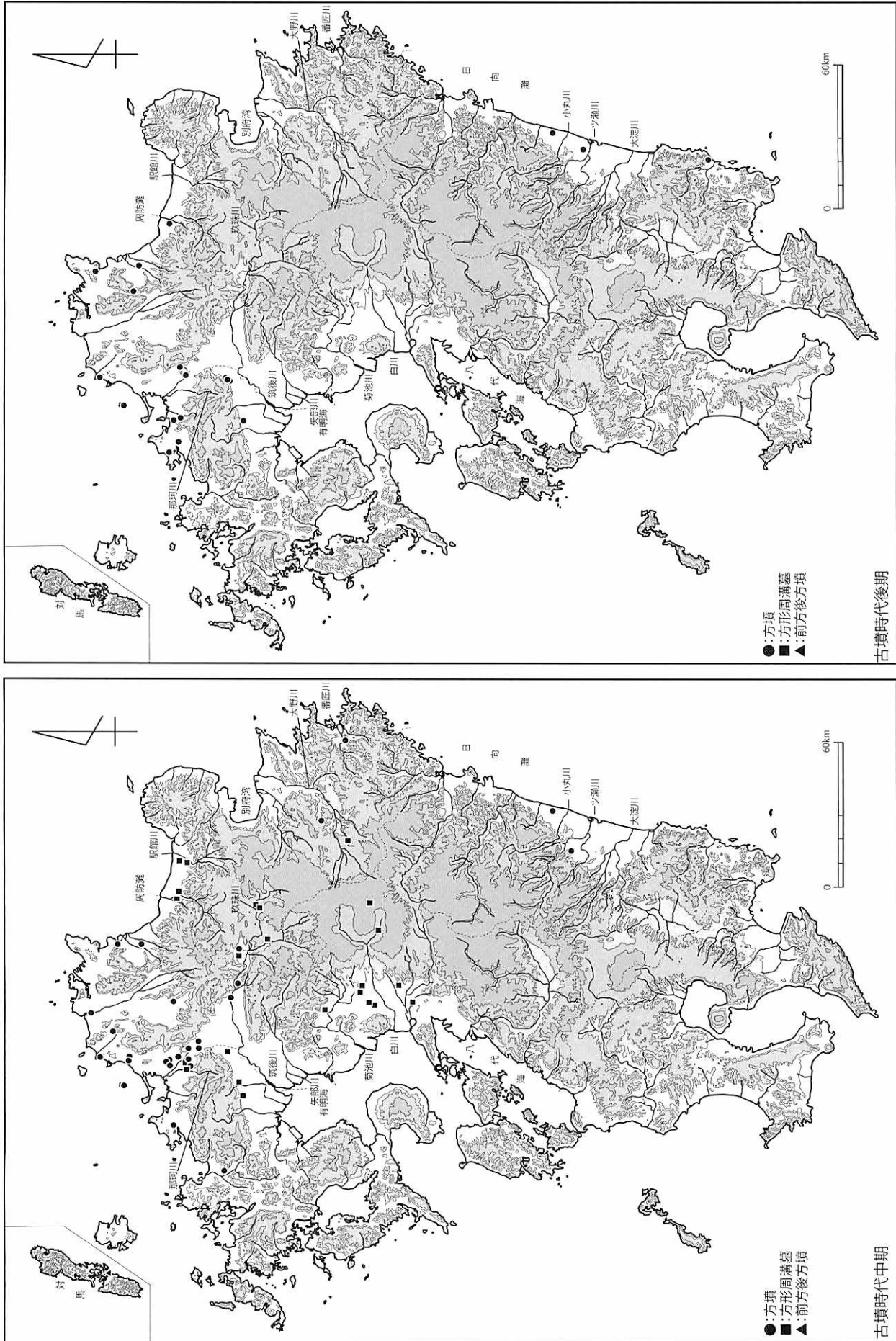
**九州の方墳・方形周溝墓・前方後方墳** 九州における方墳（方形墓）は、弥生時代後期～終末から確認されるが、古墳時代前期における築造が目立つ。福岡平野に集中しているが、直方平野・中津平野にも比較的多く存在している。筑前地域では中期に増加するが終末期にかけて減少していく。方墳が前期～中期に点在していた直方平野においては、後期以降になると確認されなくなる。筑後地域は中期には減少し、その後確認されなくなる。その他の地域においては中期に減少あるいは確認されず、後期～終末期にかけて増加していく傾向がある。特に豊前地域の中津平野と日向地域の宮崎平野においては後期～終末期にかけて築造数が倍増する。さらに対馬地域においては終末期に方墳が出現しており、特に注目される現象である。築造数は地域によって偏りがあり、最多の筑前地域は173基、最少の肥後地域は3基である。方形周溝墓は、弥生時代後期～終末においては福岡平野・中津平野・宮崎平野で比較的多く確認される。古墳時代前期では福岡平野における築造数が増加したのと同時に、筑紫平野・熊本平野においても増加する。中期になると福岡平野・筑紫平野では激減し、その他の地域も減少または確認されなくなることが多い。築造数は最多の肥後地域が136基、対馬地域では確認されていない。方墳と同様、地域によって大きな偏りがある。前方後方墳は、筑前地域の弥生時代後期～終末と対馬地域の古墳時代中期に位置づけられる例以外は、古墳時代前期にのみ確認される。主に福岡平野・筑紫平野において築造されており、筑前地域においては20基確認されているが、その他の地域では10基にも満たない。

以上九州における方墳・方形周溝墓・前方後方墳の様相をまとめた。全地域において共通の傾向はあるが、いくつかの地域差もあり一様にまとめることは困難であった。また築造時期など十分な検討を行うことができなかったものもあるため、今後もこれら方墳等の検討を継続したい。

なお今年度、平原3号墳が方墳である可能性が生じたが、もし方墳であるならば、九州において方墳が最も少ない肥後地域にとって大変重要な資料となるであろう。（幣島）

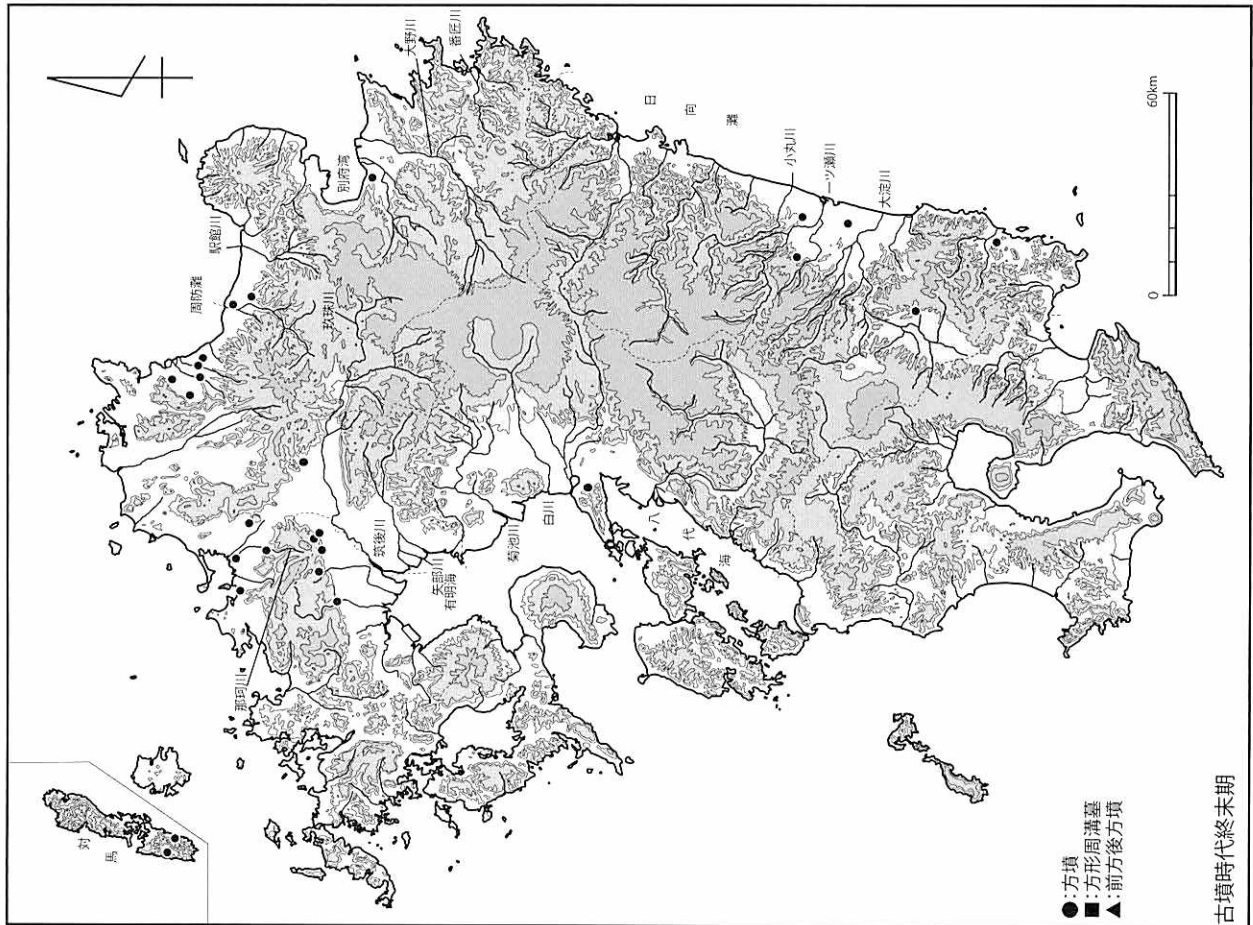
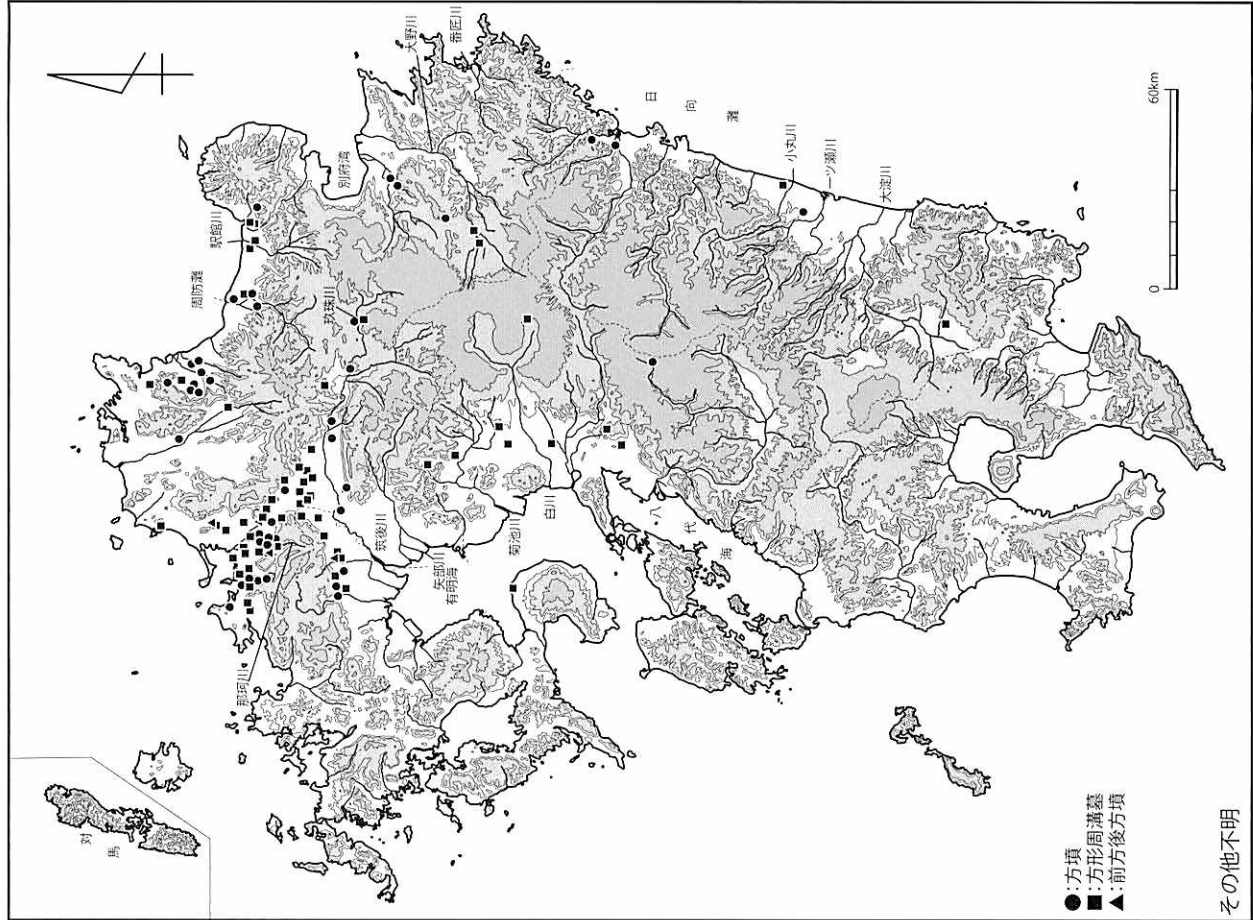


第2図 九州の方墳・方形周溝墓・前方後方墳の位置 (1)



第3図 九州の方墳・方形周溝墓・前方後方墳の位置(2)





第4図 九州の方墳・方形周溝墓・前方後方墳の位置(3)

第 1 表 九州の方墳・方形周溝墓・前方後方墳一覽表 (1)

No.	遺跡名	所在地	方形周溝墓	方墳	前方後方墳	埋葬施設	時期	備考	文献
1	座禪寺遺跡	1号	福岡県朝倉市入地座禪寺	○		箱式石棺?			92
2	治部ノ上遺跡	A1号	福岡県朝倉市入地治部ノ上	○		土壇墓			92
		B1号		○			弥生後期		
3	柿原遺跡群	1号	福岡県朝倉市柿原若山 大谷板屋城ノ下		○	横穴式石室	終末期		87, 88
		18号			△	横穴式石室			
4	立野遺跡	1号	福岡県朝倉市下浦立野	○		箱式石棺	1期		179
		2号		○		箱式石棺			
		3号		○		箱式石棺2基			
		4号		○		箱式石棺?2基			
		5号		○					
		6号		○		箱式石棺	北溝北側にて土壇墓、石蓋土壇墓		
		7号		○		箱式石棺2基			
		8号		○		箱式石棺?	台状部にて土壇墓、土壇		
		9号		○			西溝南側と東溝中央部で土壇墓各1基		
		10号		○		箱式石棺、箱式石墓			
		11号		○		箱式石棺2基			
		12号		○			北溝周溝底にて壺棺墓1基		
		13号		○		箱式石棺			
		14号		○		箱式石棺	陸橋部西側、周溝南東隅にて土壇墓各1基		
		15号		○					
		16号		△					
5	大庭宇土ノ上遺跡	1号	福岡県朝倉市土ノ上	○					1
6	池の上墳墓群	1号	福岡県朝倉市堤池の上	○		割竹形木棺			108
		2号		○		箱式石棺			
		3号		○		石蓋土壇墓			
7	原の東遺跡	4号	福岡県朝倉市菱野		○	堅穴式石室	6~7期		102
		5号			○	石棺系堅穴式石室			
		9号			○	箱式石棺			
		12号			△				
8	平塚大願寺遺跡	1号	福岡県朝倉市平塚	○		粘土槨、割竹形木棺	古墳		111, 201
9	下町外町遺跡	2号	福岡県朝倉市宮野	△		石棺			40
		4号		○		箱式石棺			
		5号		○		箱式石棺			
10	持丸遺跡	5号	福岡県朝倉市持丸山田山	○					108
		6号		○		箱式石棺			
		7号		○		石蓋土壇墓			
		8号		○					
11	外之隈遺跡	I区1号	福岡県朝倉市		○	箱式木棺	1期	中心主体東側斜面、北東付近にて石棺墓各1基	17
		II区1号			△	箱式石棺2基 木棺墓3基		東側裾部にて盤棺1基	
12	松尾古墳群	1号	福岡県朝倉郡筑前町四三嶋		○	粘土槨	2期	周溝にて石蓋土壇墓、土壇墓各1基	213
13	焼ノ峠古墳		福岡県朝倉郡筑前町四三嶋		○		2期		177, 213
14	森原古墳	2号	福岡県朝倉郡筑前町砥土		○				207
15	塚本遺跡		福岡県朝倉郡筑前町東小田塚本	○					108
16	八並遺跡		福岡県朝倉郡筑前町三並八並	○		土壇墓			108
17	坂の下古墳	1号	福岡県糸島市荻浦		○	横穴式石室	9期		44
		2号			○	横穴式石室	10期		
		3号			○	横穴式石室			
		5号			○	横穴式石室			
18	後口古墳		福岡県糸島市志摩町		△	横穴式石室	10期		118
19	平原墳墓群	1号	福岡県糸島市前原町有田平原	○			弥生終末		61, 213
		2号			○		1期		
		5号		○		土壇墓(または割竹形木棺?)	弥生中期~後期	周溝内にて壺棺1基	
20	伏龍遺跡	1号	福岡県糸島市前原町篠原多久	○		箱式石棺、土壇墓			108
		2号		○		壺棺			
21	正恵古墳群	0号	福岡県糸島市前原町瑞梅寺正恵	○		箱式石棺			108
		1号		○					

※○: 墳形が確定的 △: 墳形が不確定

第2表 九州の方墳・方形周溝墓・前方後方墳一覧表(2)

No.	遺跡名	所在地	方形周溝墓	方墳	前方後方墳	埋葬施設	時期	備考	文献
21	正恵古墳群	2号	福岡県糸島市前原町 瑞梅寺正恵	○					108
		3号		○					
22	稲葉遺跡	2号	福岡県糸島市師吉稲葉		○	箱式石棺	1期		213
23	御陵古墳群		福岡県大野城市中御陵		○		3~6期	8基	139
24	島津・丸山古墳群	丸山2号	福岡県遠賀郡遠賀町島津		○		2~5期		137
25	一の谷古墳群	1号	福岡県春日市一の谷		○	木棺		周溝内にて土壇墓	60
		2号		○	割竹形木棺				
		5号		○					
		6号		○					
26	向野古墳		福岡県春日市一の谷	○		割竹形木棺	5期		60
27	向谷古墳群	1号	福岡県春日市春日		○	割竹形木棺 組合式木棺	5~6期		60
28	春日平田北古墳群	2号	福岡県春日市春日		○	堅穴式石室			60
29	原古墳群	4号	福岡県春日市上白水原	○		木蓋土壇墓	6~7期		60, 211
		5号		○	木蓋土壇墓				
		6号		○	割竹形木棺				
		7号		○	組合式木棺				
30	ウトグチA遺跡	2号	福岡県春日市白水ヶ丘		○	木棺?	5期		193
		3号			○	木棺?			
		4号			○	木棺?			
		5号			○	墓壇3基 主体部は木棺?			
		6号			○	石棺系堅穴式 小石室			
		7号			○	木棺?			
31	ウトグチC遺跡	1号	福岡県春日市白水ヶ丘		○	粘土部、割竹形木棺	2期		158
		2号			○	粘土部、割竹形木棺			
		3号			○	木棺2基			
		4号			○	割竹形木棺			
		5号			○				
32	西平塚古墳群	2号	福岡県春日市若葉台西	○		組合式木棺	5期		60
33	ウトロ古墳		福岡県春日市			○			105
34	ウソフキ遺跡	1号	福岡県糟屋郡宇美町井野 ウソフキ		○	横穴式石室	10期		178
		4号			○	横穴式石室	終末期		
35	花ヶ浦古墳		福岡県糟屋郡粕屋町仲原 ヒラキ		○	割竹形木棺	5期		121
36	戸原大塚古墳		福岡県糟屋郡粕屋町			○	1~4期		84
37	千鳥古墳群	9号	福岡県糟屋郡古賀市千鳥		○	箱式石棺	5~6期		168
		10号			○	箱式石棺			
		11号			△				
		12号			○	石蓋土壇			
		15号			○	箱式石棺			
		18号			○	土壇2基			
38	南原古墳群	1号	福岡県糟屋郡古賀市筵内		△		6~7期		13
		2号			△	組合式木棺2基			
		3号			△	堅穴式石室			
39	萱葉古墳群	3号	福岡県糟屋郡志免町志免萱葉		○	組合式木棺	3~4期		39, 212
40	七夕池南遺跡	1号	福岡県糟屋郡志免町田富 七夕谷	○					60
		2号		○		土壇墓			
		3号		○					
41	松ノ尾古墳群	1号	福岡県糟屋郡志免町吉原		○	組合式木棺 箱式石棺	2~4期		149
		2号			○				
		3号			○				
		4号			○	割竹形木棺2基			
		5号			○	組合式木棺		南側にて土壇墓	
		7号			○		5~6期		
		8号			○				
					○				
42	相島積石塚群	1号	福岡県糟屋郡新宮町相島		○	横穴式石室	6~8期		162
		4号			○				
		10号			○	箱式石棺			
		24号			○	箱式石棺?			
		29号			○				

※○：墳形が確定的 △：墳形が不確定



第3表 九州の方墳・方形周溝墓・前方後方墳一覽表(3)

No.	遺跡名	所在地	方形周溝墓	方墳	前方後方墳	埋葬施設	時期	備考	文献	
42	相島積石塚群	福岡県糟屋郡新宮町相島	33号		○	箱式石棺?	6~10期		162	
			36号		○	箱式石棺?				
			43号		○					
			44号		○					
			46号		○		箱式石棺?			
			49号		○		箱式石棺?			
			50号		○					
			56号		△		箱式石棺			
			59号		○		箱式石棺?			
			60号		○		箱式石棺			
			65号		○		箱式石棺?			
			68号		○		箱式石棺			
			70号		○		箱式石棺?	8~9期		
			72号		○		箱式石棺			
			75号		○					
			77号		○		箱式石棺			
			79号		○					
			80号		○					
			81号		○					
			83号		○		箱式石棺			
			99号		○			6~8期		
			101号		○		箱式石棺			
			102号		○		箱式石棺			
			103号		○		箱式石棺			
			104号		○		箱式石棺			
			105号		○		箱式石棺			
			106号		○		箱式石棺			
			107号		○		箱式石棺			
			108号		○		箱式石棺			
			109号		○		箱式石棺			
110号		○		箱式石棺						
112号		○		箱式石棺						
114号		○		箱式石棺						
116号		○		箱式石棺						
119号		○								
120号		○								
121号		○								
124号		○		竪穴系横口式石室						
125号		○		竪穴系横口式石室						
126号		○		竪穴系横口式石室						
134号		○		箱式石棺						
137号		○								
138号		○		箱式石棺						
141号		○		箱式石棺						
142号		○		箱式石棺						
191号		○								
197号		○		箱式石棺	3~6期					
208号		○		箱式石棺	6~8期					
215号		○		箱式石棺	8~9期					
250号		○								
251号		○			6~8期					
43	原古墳群	福岡県糟屋郡久山町久原		○			1期		48	
44	堂の前遺跡	福岡県嘉麻市牛隈堂の前		○		竪穴式石室?木棺?	6~8期		68	
45	城野遺跡	福岡県北九州市小倉南区城野	○			箱式石棺2基	弥生後期	方形区画北側で墓壇1基	141	
46	田原遺跡	福岡県北九州市小倉南区田原	○				弥生		29	
47	上清水遺跡	福岡県北九州市小倉南区横代横枕	○						51	
48	下吉田古墳群	福岡県北九州市小倉南区吉田	48号		○	横穴式石室	10期		65	
			52号		○	横穴式石室				
49	脇田丸山遺跡	福岡県北九州市若松区安屋	1号	○			弥生後期~1期		31	
			5号	○						
			6号	○		土壇墓				

※○：墳形が確定的 △：墳形が不確定

第4表 九州の方墳・方形周溝墓・前方後方墳一覽表(4)

No.	遺跡名	所在地	方形周溝墓	方墳	前方後方墳	埋葬施設	時期	備考	文献	
49	脇田丸山遺跡	福岡県北九州市若松区安屋	7号	○					31	
			8号	○						
			9号	○			石棺2基			
			10号	○						
			11号	○						
			12号	○						
			13号	○			石蓋土壙墓, 土壙墓			
			14号	○						
15号	○									
50	陣ノ尾古墳群	福岡県太宰府市国分陣ノ尾		○				139		
51	成屋形古墳群	福岡県太宰府市水城成屋形	1号	○		木蓋土壙墓	1期	139		
			2号	○		箱式石棺				
				○		箱式石棺				
52	宮ノ本遺跡	福岡県太宰府市向佐野宮ノ本	1号		○	箱式石棺2基	6~7期	66, 217		
			2号	○		箱式石棺				
			3号		○	割竹形木棺				
			4号		○	箱式石棺				
			5号		○	木蓋土壙墓2基				
			7号		○	箱式石棺				
			8号		○	石蓋土壙墓				
			9号		○	粘土槨, 割竹形木棺				
			10号		○	箱式石棺				
			13号		○	割竹形木棺	2期			
					△	箱式石棺 組合式木棺	1期			
53	宗石遺跡	福岡県筑紫郡那珂川町今光宗石	○					60		
54	恵子若山遺跡	福岡県筑紫郡那珂川町恵子		○		箱式石棺		26		
			1号	△						
			2号	△						
			3号	△						
55	井河古墳群	福岡県筑紫郡那珂川町片繩	3号		○	割竹形木棺	2期	149		
			8号		○	割竹形木棺				
56	白石支群1群	福岡県筑紫郡那珂川町片繩		△		横穴式石室	10期	104		
57	観音山古墳群 瀬戸II群	福岡県筑紫郡那珂川町下梶原			○	横穴式石室		47		
58	油田古墳群	福岡県筑紫郡那珂川町道善油田	2号	○				149		
			3号	○						
			4号		○	割竹形木棺	2期			
59	妙法寺古墳群	福岡県福岡市筑紫郡那珂川町道善妙法寺	2号		○	粘土槨, 丸底木棺 割竹形木棺 箱式石棺	1期	105, 107 149, 213		
			3号		○	割竹形木棺	2期			
				○						
60	炭焼古墳群	福岡県筑紫郡那珂川町仲炭焼	1号		○		1期	213		
			2号		○					
			3号		○					
			4号		○					
			1号	○		箱式石棺, 木棺 石蓋土壙				
			2号	○						
61	観音山古墳群 中原支群	福岡県筑紫郡那珂川町中原井手ノ原深原	4号		○			24		
			7号		○					
			9号		○	横穴式石室				
62	エゲ遺跡	福岡県筑紫郡那珂川町松木カフチガ浦		○		割竹形木棺	1期	127		
63	観音寺古墳群 平石III群	福岡県筑紫郡那珂川町松木		△		横穴式石室		176		
64	観音堂古墳	福岡県筑紫郡那珂川町			○			105, 107		
65	中原遺跡	福岡県筑紫郡那珂川町		○				130		
66	シメノグチ遺跡	福岡県筑紫野市阿志岐シメノグチ	2号	○				60		
			3号	○		割竹形木棺, 土壙墓				
			4号	○						
			6号	○						
67	阿志岐古墳群	B群22号	福岡県筑紫野市阿志岐		△		割竹形木棺	5期	裾部にて石棺墓2基、土壙墓1基	149, 213 216

※○: 墳形が確定的 △: 墳形が不確定

第5表 九州の方墳・方形周溝墓・前方後方墳一覽表(5)

No.	遺跡名	所在地	方形周溝墓	方墳	前方後方墳	埋葬施設	時期	備考	文献	
67	阿志岐古墳群	B群23号	福岡県筑紫野市阿志岐		○	割竹形木棺	3~4期		149, 213 216	
		B群24号			○	割竹形木棺	6~7期			
		B群26号			○		1期			
68	古剣塚古墳	1号	福岡県筑紫野市杉塚		△	箱式石棺3基	3~5期		21	
		2号			△	木棺				
		3号			△	組合式木棺	5期			
69	唐人塚遺跡	2号	福岡県筑紫野市杉塚		○	土壇墓, 石蓋土壇墓, 箱式石棺, 組合式木棺, 粘土槨			60	
		3号			○					
70	道場山2地点	福岡県筑紫野市道場山	○			土壇墓	1期		67	
71	隈・西小田第1	1号			○	組合式木棺2基	1期		213	
72	隈・西小田第6	3号	福岡県筑紫野市西小田		○	木棺?	1期		201	
		4号			○	木棺?				
73	隈・西小田第10				○		1期		201	
74	蘇山古墳群	1号	福岡県筑紫野市針摺		○			2期		213
75	飯倉唐木遺跡	2号	福岡県福岡市早良区飯倉		○				96	
		3号			○					
		4号			○	土壇墓				
					○					
76	重留古墳	第8-IV地点	福岡県福岡市早良区重留塚本松木町田		△				18	
		第16地点			○	石棺墓, 木棺墓 石蓋土壇墓, 土壇墓	1期	28基		
77	田村遺跡	SX101	福岡県福岡市早良区田村		△				103	
78	藤崎遺跡	1号	福岡県福岡市早良区藤崎		○	土壇墓3基 箱式石棺2基	1期		125, 167 218	
		2号			○	土壇墓, 甕棺		西辺周溝外にて箱式石棺1基		
		3号			○	木棺, 甕棺				
		4号			○	粘土槨				
		5号			○	木棺				
		6号			○	組合式木棺				
		7号			○	木棺				
		8号			○	木棺				
		9号			○					
		10号			○	土壇墓				
		SD029			○			底面にて石棺墓1基		
		3号墓				○	組合式木棺			
		6号墓				○	組合式木棺			
		79		京の隈古墳		福岡県福岡市城南区田島				○
80	金武乙石遺跡II	1号	福岡県福岡市西区金武		○				130	
		2号			○					
81	夫婦塚古墳		福岡県福岡市西区金武		○		横穴式石室	10期		130
82	桑原金屎古墳	2号	福岡県福岡市桑原金屎		○				77	
		3号			△					
83	草場古墳群	1号	福岡県福岡市西区下山門大谷		○	横穴式石室			62, 190	
		5号			○	竪穴式小石室	10期			
		6号			△	横穴式石室	10~ 終末期			
84	宮の前遺跡		福岡県福岡市西区拾六町			○	箱式石棺	弥生終末	213	
					○	箱式石棺				
85	野方久保遺跡		福岡県福岡市西区野方久保		○				38	
86	羽根戸南古墳群	G-7号	福岡県福岡市西区羽根戸龍之下		○	石蓋土壇墓			222	
		G-8号			△	石蓋土壇墓				
87	五島山遺跡		福岡県福岡市西区姪浜町五島山		○		箱式石棺		60	
88	吉武古墳群	S群2号	福岡県福岡市西区吉武		○			6期		128
89	比恵遺跡	SD01	福岡県福岡市博多区駅南		△			弥生終末		127
90	天神森遺跡	1号	福岡県福岡市博多区下月隈		△		横穴式石室	8期		69
91	雑餉隈遺跡		福岡県福岡市博多区新和町		△					194
92	堤ヶ浦古墳群	8号	福岡県福岡市博多区		○		横穴式石室	終末期		221
93	那珂遺跡群	SX00	福岡県福岡市博多区			△		1期	159, 213 214	
		SX01			○		1期			

※○: 墳形が確定的 △: 墳形が不確定



第6表 九州の方墳・方形周溝墓・前方後方墳一覧表(6)

No.	遺跡名	所在地	方形周溝墓	方墳	前方後方墳	埋葬施設	時期	備考	文献
93	那珂遺跡群	福岡県福岡市博多区	SX002	○					159, 213 214
			SX04	○			石棺?	1期	
			SX13	○					
			SX028	○					
			SD01	△				弥生後期 ~1期	
			SD02	△				弥生後期	
			SD011			△		1期	
			SD015	○				1期	
			SD110	△				1期	
94	博多遺跡群	福岡県福岡市博多区	SX200	○		割竹形木棺2基		127, 149	
SD109			○	○	割竹形木棺	2~4期			
					割竹形木棺				
95	蒲田・水ヶ元遺跡	福岡県福岡市東区蒲田水ヶ元	1号	○				54	
			2号	○					
96	部木古墳群	福岡県福岡市東区蒲田	1号		○	割竹形木棺	1期	160, 213	
			2号		○				
97	唐原遺跡	福岡県福岡市東区唐原	△				弥生終末	95	
98	名子道遺跡	福岡県福岡市東区土井名子道	○			箱式石棺		60	
99	箱崎遺跡	福岡県福岡市東区馬出	1号	○				2期	2, 187
			2号	○					
			S0-041	○			弥生終末 ~1期		
100	井尻古墳群	福岡県福岡市南区井尻		○		竪穴式石室?	1期	周溝外にて石蓋土壇墓、 木蓋土壇墓、土壇墓	220
101	日佐原遺跡	福岡県福岡市南区日佐日佐原	○			箱式石棺		60	
102	五十川遺跡	福岡県福岡市南区五十川	SD3006	○				1期	219
			SD3023	○					
			SD-5001	○				1期	
103	新原・奴山古墳群	福岡県福岡市勝浦		○			6~10期	14, 16	
104	石川古墳	福岡県前原市荻浦	1号		○	横穴式石室	8期	陸橋部にて小型箱式石棺	185
			3号		○	組合箱式木棺	2期		
105	五反田遺跡	福岡県前原市	○				弥生	49	
106	名呑古墳	福岡県宗像市津屋崎町	○			箱式石棺		14, 15	
107	徳重木村遺跡	福岡県宗像市徳重		○		長方形土壇墓	1期	80	
			1号		○	割竹形木棺	1期		
108	富地原梅木遺跡	福岡県宗像市富地原		△		割竹形木棺	3~8期	周溝外にて壺棺	173
109	宇土遺跡	福岡県うきは市山北宇土		△			1~5期	148	
110	生葉遺跡	福岡県うきは市吉井町生葉		○			3~4期	127	
111	竹重遺跡	福岡県うきは市吉井町生葉			○		1期	71	
112	乙隈天道町遺跡	福岡県小都市乙隈・朝倉郡筑前町四三島	1号	○					93
			2号	○					
			3号	○					
			4号	○					
113	津古生掛遺跡	福岡県小都市津古生掛	1号	○		木棺		199	
			2号	○		長方形の棺			
			3号	○					
			4号	○					
			5号	○					
			6号	○					
114	津古片曾葉遺跡	福岡県小都市津古		○		木棺	1期	201	
115	津古遺跡	福岡県小都市津古		○			1期	201	
116	寺福童遺跡	福岡県小都市寺福童	1号	○				1期	126
			2号	○		土壇墓			
			3号	○					
			4号	○		土壇墓		周溝内にて土壇墓	
117	一ノ口遺跡	福岡県小都市三沢一ノ口	○				弥生後期	223	
118	西島遺跡	福岡県小都市三沢栗崎	○					202	
119	横隈山遺跡7	福岡県小都市三沢	1号	○				201	
			2号	○					
			3号	○		石蓋土壇墓			
120	横隈山遺跡	福岡県小都市三沢	○			箱式石棺		201	

※○：墳形が確定的 △：墳形が不確定

第7表 九州の方墳・方形周溝墓・前方後方墳一覽表(7)

No.	遺跡名	所在地	方形周溝墓	方墳	前方後方墳	埋葬施設	時期	備考	文献
121	横隈上内畑遺跡3	福岡県小都市横隈上内畑	○			粘土槨、割竹形木棺? 組合式木棺?	弥生終末 ~1期		203
			○						
			○						
			○						
122	横隈上内畑遺跡2	福岡県小都市横隈	○			土壇墓?	弥生終末 ~1期		223
123	横隈上内畑遺跡6	福岡県小都市横隈	○				2~4期		189
124	横隈孤塚遺跡	福岡県小都市横隈	○				弥生後期		223
125	三沢畝道町遺跡	福岡県小都市	○				弥生終末 ~1期		200
			○						
			○						
			○						
126	福聚寺古墳群	福岡県久留米市合川町福聚寺		○		箱式石棺 石蓋粘土棺			50
				○		箱式石棺2基 木棺墓			
127	祇園山古墳	福岡県久留米市御井町高良山		○		箱式石棺	弥生終末		180
128	七曲山遺跡群	福岡県久留米市山川町城七曲	△						22, 127
				○		箱式石棺2基			
129	西原遺跡	福岡県八女市平田西原	○				1期	3基	3
130	辻の西遺跡	福岡県八女市吉田辻	○				2期		4
			○						
			○						
			○						
			○						
			○			箱式石棺			
			○			箱式石棺、土壇墓			
			○						
			○						
			○						
131	寺浦遺跡	佐賀県小城市畑田寺浦	○			箱式石棺	1~4期		133
			○			石蓋土壇			
			○						
132	寄居遺跡	佐賀県小城市晴気寄居		○		石蓋土壇	1~4期		133
				○		箱式石棺			
133	滝C遺跡	佐賀県小城市松尾滝	○			箱式石棺、石蓋土壇	1~4期		133, 146
			○			石蓋土壇			
134	戊遺跡	佐賀県小城市	○				2期		74
135	久米遺跡	佐賀県小城市	○				弥生終末 ~1期		75
			○						
			△						
136	織島東分上遺跡	佐賀県小城市織島東分	○				1~4期		45, 133
			○						
137	織島東分下遺跡	佐賀県小城市三日月町 織島東分	○				2期	周溝内に土壇墓3基	37
			○						
			○			箱式石棺			
			○						
			○						
			○			石蓋土壇墓			
			○						
			○						
			○			石棺			
138	下久米遺跡	佐賀県小城市下久米	○				弥生終末 ~1期		75
			○						
			○						
139	双水柴山遺跡	佐賀県唐津市双水柴山		○		組合箱式石棺	1~8期		151
				○			5期		
140	朝日北遺跡	佐賀県神埼市城原朝日		○		組合箱式石棺2基	1~4期		132, 133
				○		組合箱式石棺			
				○		組合箱式石棺			

※○：墳形が確定的 △：墳形が不確定

一 位置と環境

第8表 九州の方墳・方形周溝墓・前方後方墳一覧表(8)

No.	遺跡名	所在地	方形周溝墓	方墳	前方後方墳	埋葬施設	時期	備考	文献
140	朝日北遺跡	5区 ST10		○		組合箱式石棺2基			132, 133
		IV区	佐賀県神埼市城原朝日	○		箱式石棺			
		V区		○		箱式石棺2基			
141	猿嶽古墳群	ST001 佐賀県神埼市城原		○					116
142	枝町遺跡	ST011		○			1~4期		181
		ST012		○					
		ST014		○					
		ST015	佐賀県神埼市神埼町鶴	○					
		ST016		○					
		ST018		○					
143	上石動古墳	佐賀県神埼郡吉野ヶ里町石動		○		横穴式石室	終末期		116
144	浦田古墳群	ST017	○				5期		23
		ST018	佐賀県神埼郡吉野ヶ里町三津	○					
145	吉野ヶ里遺跡	ST001	△					周溝内にて石蓋土壙墓	110, 127
		ST0568			○				
		ST0825		○			1~4期		
		ST0826	佐賀県神埼郡吉野ヶ里町	○					
		ST0924		○					
		ST0941			○				
		ST0942			○				
146	金立開拓遺跡	ST022 佐賀県佐賀市金立町金立		○			10~終末期?		35
147	東千布遺跡	ST010	○				1~4期		184
		SD028	佐賀県佐賀市金立町千布	△					
		ST162		○					
148	西千布遺跡	ST6003	○			木棺			182
		ST6006	佐賀県佐賀市金立町	○					
149	古村遺跡	ST4010	○				1~4期		182
		ST4020	佐賀県佐賀市久保泉町上和泉古	○					
		ST4030		○					
150	鈴熊遺跡	ST011 佐賀県佐賀市久保泉町川久保鈴熊	○			箱式石棺	1~4期		147
151	藤附 C 遺跡	ST001	○			箱式石棺2基	5期		170
		ST002	佐賀県佐賀市久保泉町川久保藤附	○		箱式石棺			
152	藤附 E 遺跡	ST002 佐賀県佐賀市久保泉町川久保藤附	○				5~6期		89, 170
153	増田遺跡	ST5005		○			1~4期		183
		ST5012		○					
		ST5033		○					
		ST5035		○					
		ST5039		○					
		ST5040		○					
		ST5071		○					
		ST5083		○					
		ST5101		○					
		ST5103	佐賀県佐賀市鍋島町鍋島	○					
		ST5104		○					
		ST5118		○					
		ST5123		○					
		ST5136		○					
		ST5326		○					
154	尼寺一本松遺跡	佐賀県佐賀市大和町尼寺	○						182
155	百度塚古墳	佐賀県鳥栖市牛原町前田		○		横穴式石室	10期		115, 130
156	日岸田遺跡	ST002 佐賀県鳥栖市神辺町日岸田	○				5~8期		97
157	立石山田遺跡	佐賀県鳥栖市立石町		○			9~終末期	2基	115

※○：墳形が確定的 △：墳形が不確定



第9表 九州の方墳・方形周溝墓・前方後方墳一覽表(9)

No.	遺跡名	所在地	方形周溝墓	方墳	前方後方墳	埋葬施設	時期	備考	文献
158	姫方遺跡	佐賀県鳥栖市中原町	○						133
159	西田遺跡	ST01 佐賀県鳥栖市山浦町		○			9~10期		115, 171
160	一ノ坪古墳群	佐賀県鳥栖市山都町一ノ坪		○			終末期		115
161	神山古墳	佐賀県鳥栖市柚比町		△		横穴式石室			116
162	赤坂古墳	佐賀県鳥栖市永吉町赤坂			○		1期		115
163	本川原遺跡	1号	佐賀県鳥栖市永吉町本川原	○		土壇墓	弥生終末		72
		2号		○					
164	本原遺跡	1号	佐賀県鳥栖市原町本原	△					20
		2号		△					
165	五本谷遺跡	1号	佐賀県三養基郡上峰町 堤五本谷・四本谷	○					182
		2号		○					
		3号		○					
166	堤方遺跡	佐賀県三養基郡上峰町	○						73
167	姫方原遺跡	佐賀県三養基郡みやき町 鏡原姫方原	○				3~4期		73
168	龍王遺跡	長崎県雲仙市国見町土黒今出	○						138
169	矢立山古墳群	1号	長崎県対馬市下原		○	横穴式石室	終末期	積石塚状	52
		2号			○	横穴式石室	終末期	積石塚状	
		3号			○	横穴式石室	終末期	積石塚状	
170	出居塚古墳	長崎県対馬市鶏知			○	箱式石棺	5~6期		52
171	サイノヤマ古墳	長崎県対馬市		○		横穴式石室	終末期		116
172	保床山古墳	長崎県対馬市		△		横穴式石室	終末期		116
173	大村古墳群	熊本県阿蘇郡高森町上色見	○			箱式石棺	古墳前~ 中期		6
174	色見遺跡	熊本県阿蘇郡高森町	○						144
175	柏木谷遺跡	1号	熊本県阿蘇郡南阿蘇村 久石柏木谷	○			古墳前~ 中期	主体部2基	36
		2号		○					
		3号		○				主体部1基	
		4号		○				主体部1基※2基が重なっている可能性あり	
		5号		○				主体部2基	
		6号		○		木棺?		主体部3基	
		7号		○				主体部3基	
		8号		○				主体部1基	
		9号		○				主体部1基	
		10号		○					
		11号		○		箱式石棺			
		12号		○					
176	椿原古墳	熊本県宇土市椿原町金嶽		○		横穴式石室	9~ 終末期		85
177	上松山遺跡	1号	熊本県宇土市松山町東原	○			弥生終末 ~1期		30
		2号		○					
		3号		○					
		4号		○	箱式石棺				
		5号		○					
		6号		○					
		7号		△					
		8号		△					
178	秋永遺跡	熊本県上益城郡益城町 小池年ノ神	○			組合箱式石棺	2~5期		83, 186
179	木柑子東山ノ上 B遺跡	1号	熊本県菊池市木柑子東山ノ上	○			1期		5
		2号		○					
		3号		○					
		4号		○					
		5号		○					
180	小野崎遺跡	前畑Ⅱ区 ST-01	熊本県菊池市七城町 蘇崎・小野崎	○		粘土槨、木棺墓?	古墳前期		136
		前畑Ⅱ区 ST-01溝		○					
		町畑Ⅲ区 ST-01		○		粘土槨、木棺墓			
181	辺田上覆古墳	熊本県菊池市七城町	○			舟形石棺	弥生後期 ~4期		109

※○：墳形が確定的 △：墳形が不確定

第 10 表 九州の方墳・方形周溝墓・前方後方墳一覧表 (10)

No.	遺跡名	所在地	方形周溝墓	方墳	前方後方墳	埋葬施設	時期	備考	文献	
182	辺田七ツ枝古墳	熊本県菊池市七城町	○				弥生後期 ~4期		109	
183	うてな遺跡	熊本県菊池市七城町	○				3~4期		127, 186	
184	一本罌跡	熊本県熊本市北区植木町	△						28	
185	五丁中原遺跡	熊本県熊本市北区貞町和泉	○				5期	3基	63	
186	飛田遺跡	熊本県熊本市北区四方寄町	○				7期	3基	82	
187	広木遺跡	熊本県熊本市東区健軍町広木	○			箱式石棺2基	1~4期	西溝の北隅に土壇墓あり	208	
188	水源地遺跡	C地点2号	○			石棺	古墳		83, 119 191	
		C地点3号	○			箱式石棺				
		1号	○			組合式木棺			76, 78 79, 150 163	
		2号	○			組合式木棺				
		3号	○							
		4号	○			組合式木棺				
		5号	○			組合式石棺? 組合式木棺?				
		6号	○			組合式木棺3基				
		7号	○			組合式木棺? 組合式石棺?				
		8号	○			組合式石棺				
		9号	○							
		10号	○							
		11号	○			組合式木棺4基				
		12号	○			組合式木棺3基				
		13号	○							
		14号	○							
		15号	○			石棺?				
		16号	○			組合式木棺				
		17号	○			組合式木棺				
		18号	○			組合式木棺				
		19号	○			組合式木棺2基				
		20号	○							
		21号	○							
		22号	○			組合式木棺				
		23号	○							
		24号	○							
		25号	○							
		26号	○							
		27号	○							
		28号	熊本県熊本市南区城南町	○				古墳前~ 中期		
		29号		○						
		30号		○			組合式石棺			
		31号		○			組合式石棺			
		32号		○						
		33号		○						
		34号		○						
		35号		○			組合式石棺3基			
		36号		○			横口式石棺			
		37号		○						
		38号		○						
		39号		○			組合式石棺			
		40号		○						
		41号		○			組合式石棺 組合式木棺			
		42号		○						
		43号		○						
		44号		○						
		45号		○			組合式木棺			
		46号		○			組合式石棺			
		47号		○						
		48号		○						
		49号		○						
		50号		○			組合式石棺			
		51号		○			組合式石棺			
		52号		○						
		53号		○			組合式木棺			
		54号		○						
	55号		○							
	56号		○							

※○：墳形が確定的 △：墳形が不確定

第 11 表 九州の方墳・方形周溝墓・前方後方墳一覽表 (11)

No.	遺跡名	所在地	方形周溝墓	方墳	前方後方墳	埋葬施設	時期	備考	文献
189	塚原古墳群	熊本県熊本市南区城南町	57号	○		組合式石棺	古墳前～中期		76, 78 79, 150 163
			58号	○		組合式石棺			
			59号	○					
			60号	○					
			56-1号	○					
			56-2号	○					
			56-3号	○					
			M2号		○	家形石棺			
190	迫原遺跡	熊本県合志市合生迫原	1号	○		割竹形木棺	3～7期		34
			2号	○		箱式石棺			
			3号	○		箱式石棺			
			4号	○		組合箱式木棺?			
			5号	○					
			6号	○		列板式割竹形木棺			
			7号	○		箱式石棺			
			8号	○					
			9号	○		割竹形木棺			
			10号	○					
			11号	○					
191	八反原遺跡	熊本県合志市合生八反原	○		箱式石棺		10基	161	
192	石立遺跡	1号 熊本県合志市合生	○			6期		33	
193	八反田 A 遺跡	1号 熊本県合志市合生	○		組合箱式石棺	5～6期		32	
194	八反田 C 遺跡	1号 熊本県合志市合生	○		組合箱式石棺	5～6期		33	
195	野部田遺跡	熊本県玉名市野辺田際目	△				弥生終末	83	
196	上日置女夫木遺跡	熊本県八代市上日置町女夫木	SZ001	○					165
			SZ002	△					
			SZ004	△					
			SZ005	○			1期		
			SZ006	△			1期		
197	高塚東原遺跡	熊本県八代郡氷川町大野北川	○				1～4期	70	
198	高塚遺跡	熊本県八代郡氷川町高塚	○					191	
199	浦大間古墳群	熊本県山鹿市浦大間	1号	○				5～7期	56, 57 161
			2号	○					
			3号	○					
			4号	○					
			5号	○		家形石棺			
			6号	○					
			7号	○		家形石棺			
200	方保田東原遺跡	熊本県山鹿市方保田	△				弥生	157, 164	
201	茶臼塚古墳	熊本県山鹿市鹿本町		△			1～4期	120	
202	西福寺遺跡	熊本県山鹿市城宇西福寺	4号	○					81
			5号	○					
203	茶臼山古墳	熊本県山鹿市茶臼山		○				161	
204	狐塚遺跡	福岡県田川郡大任町 今任原狐塚	2号	○		土壇墓、木棺			60
			3号	○					
205	穴ヶ葉山遺跡	4号 福岡県築上郡上毛町下唐原		○		横穴式石室	10期?	129	
206	下唐原西方遺跡	福岡県築上郡上毛町下唐原	1号	○				1～4期	117
			2号	○					
			3号	○					
			4号	○					
			5号	○		石棺	4～8期		
			6号	○		石棺	1～4期		
			7号	○		石蓋土壇墓			
			8号	○		木棺	4～8期		
207	能満寺古墳群	福岡県築上郡上毛町下唐原	2号		○	石蓋土壇墓	1期	123, 175 213	
			4号		○	石蓋土壇墓			
208	宇野代遺跡	福岡県築上郡上毛町垂水野代	1号		△		10～終末期	46	
			2号		△				
209	石堂中後ヶ谷古墳群	福岡県築上郡築上町 石堂中後ヶ谷	1号		△	横穴式石室	終末期	41	
			2号		△	横穴式石室			

※○：墳形が確定的 △：墳形が不確定

第12表 九州の方墳・方形周溝墓・前方後方墳一覧表(12)

No.	遺跡名	所在地	方形周溝墓	方墳	前方後方墳	埋葬施設	時期	備考	文献
209	石堂中後ヶ谷古墳群	3号	福岡県築上郡築上町石堂中後ヶ谷		△	横穴式石室			41
		4号			△	横穴式石室			
		5号			△	横穴式石室			
		12号			△	横穴式石室			
210	黒部古墳群	2号	福岡県豊前市松江		△	横穴式石室			41
211	松蔭天疫神社古墳群	1号	福岡県京都郡菊田町稲光		○	割竹形木棺			175
		2号			○				
		3号			○				
212	松山遺跡	9号	福岡県京都郡菊田町菊田		○		8期		128
213	野添遺跡	2号	福岡県京都郡みやこ町大久保		○	箱式石棺 石蓋土壇墓			174
		3号			○	木棺, 箱式石棺			
214	下田南遺跡	6号	福岡県京都郡みやこ町勝山松田		△				64
215	橋塚古墳		福岡県京都郡みやこ町上黒田		○	横穴式石室	10期		143
216	甲塚方墳		福岡県京都郡みやこ町国作		○	横穴式石室	10期		124
217	木山平遺跡	1号	福岡県京都郡みやこ町犀川花熊		△	石棺系石室			128
218	川ノ上遺跡	1号	福岡県京都郡みやこ町徳永川ノ上		○	組合式木棺	1期		213
219	徳永川ノ上遺跡	1号	福岡県京都郡みやこ町徳永		○		10～終末期	周溝東側にて木蓋土壇墓	210
		2号			○	箱式石棺			
		3号			○				
		4号			○				
		1号墳丘墓			○	箱式木棺		周溝中にて石蓋土壇墓1基	
		3号墳丘墓			○			箱式石棺1基、石蓋土壇墓6基、土壇墓3基、甕棺3基	
220	三ツ塚方墳		福岡県京都郡みやこ町菅見高尾山		○	横穴式石室	終末期		143
221	御手洗水原古墳群	12号	福岡県京都郡みやこ町		△				130
222	稲童古墳群	11号	福岡県行橋市稲童		○	木棺, 石蓋土壇2基	1期	周溝外にて小型箱式石棺墓	215
		13号			△	箱式石棺, 石蓋土壇土壇			
223	渡築茶古墳群	9号	福岡県行橋市稲童		○	横穴式石室	終末期		45
		14号			○	横穴式石室	終末期		
224	下稗田遺跡		福岡県行橋市下稗田		○	箱式石棺7基 石蓋土壇墓2基 土壇墓1基	弥生後期～1期	陸橋部にて1号祭祀遺構	154
225	竹並遺跡A	2号	福岡県行橋市竹並		○	石蓋土壇墓2基			175
		15号			○	箱式石棺			
		19号			○				
226	竹並遺跡H	1号	福岡県行橋市竹並		○		7期		175
		2号			○	木棺			
227	竹並遺跡古墳群	2号	福岡県行橋市竹並		○	横穴式石室	終末期		175
228	長井作り山遺跡		福岡県行橋市長井作り山		○		弥生終末～1期		156
229	願光寺裏山古墳		福岡県行橋市福丸		○		終末期		143
230	小迫谷遺跡	6号	福岡県行橋市馬場		○	竪穴式石室			128
231	前田山遺跡	1号	福岡県行橋市前田		○	甕棺			155
232	小部遺跡	1号	大分県宇佐市荒木字小部		○		1期		91, 106
		2号			○				
		3号			○				
		4号			○				
		ST-1			○	箱式石棺	8期		
233	川部・高森古墳群	赤塚地区1号墳	大分県宇佐市川部・高森		○	箱式石棺	1～2期		127
		赤塚地区4号墳			○	箱式石棺	3～4期		
		赤塚地区8号墳			○		2期		
		赤塚地区9号墳			○	箱式石棺	1～2期		

※○：墳形が確定的 △：墳形が不確定

第 13 表 九州の方墳・方形周溝墓・前方後方墳一覽表 (13)

No.	遺跡名		所在地	方形周溝墓	方墳	前方後方墳	埋葬施設	時期	備考	文献
233	川部・高森古墳群	赤塚地区 11号墳	大分県宇佐市川部・高森		○			2期		127
		角房地区 2号墳			○		栗石積石棺	3~4期		
234	免ヶ平古墳		大分県宇佐市川部免ヶ平	○			石蓋土壇墓		南側にて壺棺、西側にて土壇墓	55
235	川部遺跡	1号	大分県宇佐市川部	○			箱式石棺 石蓋土壇墓	弥生終末		169
236	赤塚石棺群遺跡		大分県宇佐市高森	○						59, 192
237	別府・折戸ノ上遺跡	1号	大分県宇佐市別府	○			箱式石棺	6~8期		140
		2号		○		箱式石棺				
238	古稲荷古墳		大分県宇佐市		○			1期		58
239	勘助野地遺跡	1号	大分県中津市相原勘助野地		○		組合箱式石棺, 石蓋土壇, 組合式木棺	6~7期		90, 113 204
		2号			○		石蓋土壇	2~5期		
		3号			○		木棺			
240	上ノ原平原遺跡		大分県中津市相原三光村	○				弥生中期 初頭前後		86
241	幣旗邸古墳群	2号	大分県中津市相原		○		竪穴式石室 割竹形木棺			175
242	上ノ原稲荷塚古墳		大分県中津市永添上ノ原		○		横穴式石室, 木棺	終末期		11
243	相原山首古墳群		大分県中津市		○					84
244	永添遺跡		大分県中津市		○			終末期		175
245	山伏古墳群	5号	大分県大分市木ノ上田原		○					12
246	浅草神社古墳群	9号	大分県大分市木ノ口戸		○				※9号墳と10号墳が1つになる可能性あり	12
		10号			○					
247	古宮古墳		大分県大分市三芳宮畑		○		横口式石室	終末期		116, 130
248	陣ヶ台遺跡	1号	大分県玖珠郡玖珠町陣ヶ台	○			石棺2基	5期	東側溝内にて小児石棺1基 南側溝内にて土壇墓?	101
		2号		○		石棺	2~4期			
		3号		○		石棺2基				
		4号		○		石棺3基	2期			
		5号		○		石棺2基	2期			
		6号		○		石棺		南側溝にて石棺1基		
		7号		○		石棺2基				
		8号		○						
249	瀧ノ原古墳		大分県玖珠郡玖珠町戸畑瀧ノ原		○		土壇墓? 木棺?	2期		100
250	瀬戸古墳群	2号	大分県玖珠郡玖珠町帆足瀬戸		○					205
		3号			○					
		4号			○					
		5号			○					
		6号			○					
251	おごもり遺跡		大分県玖珠郡玖珠町	○			箱式石棺	8期		58
252	檉野古墳		大分県佐伯市上岡檉野		○			7~8期		128
253	楠野 D 遺跡	1号	大分県竹田市今楠野	○						142, 166
		2号		○				周溝内にて土壇墓1基		
		3号		○						
		4号		○						
		5号		○						
		6号		○						
		7号		○						
254	塚園遺跡	1号	大分県竹田市太田	○				2~8期		98
		2号		○			土壇墓? 割竹形木棺?			
		3号		○			土壇墓			
255	中原遺跡		大分県竹田市有氏	○			石棺	1期		195
256	仏原千人塚1号墳		大分県竹田市仏原南		○		木棺	1期	前方部周溝内にて木棺墓	196
257	小城原遺跡		大分県竹田市仏原	○			石棺	1~3期	木棺墓4基、土壇墓1基	195
258	小園遺跡		大分県竹田市	○						94
259	田代遺跡	1号	大分県竹田市	○				古墳		114
		3号		○						
260	中尾原遺跡		大分県日田市天瀬町五馬市中尾原	○			石棺式竪穴式石室	6~7期		128

※○：墳形が確定的 △：墳形が不確定



第14表 九州の方墳・方形周溝墓・前方後方墳一覧表(14)

No.	遺跡名	所在地	方形周溝墓	方墳	前方後方墳	埋葬施設	時期	備考	文献	
261	草場第2遺跡	大分県日田市清岸寺町本村	1号	○		箱式石棺 石蓋土壙墓		周溝内にて2号土壙墓	112, 134 135	
			2号	○						
			3号	○						墓域内にて18、19号墓
			4号	○			箱式石棺			
			5号	○			組合箱式石棺	5~6期		墓域内にて埋葬施設10基
			6号	○			石棺			
			7号	○						周溝内にて石蓋土壙墓
			8号	○						
			9号	○			石蓋土壙			
			10号	○						
			11号	○			箱式石棺	7期		
			12号	○			小型石棺系堅穴式石室	7期		
			13号	○			箱式石棺、小石室	5~6期		
			14号	○						
			15号	○						
			16号	○						
			18号	○			土壙墓2基			
			19号	○			箱式石棺			
			20号	○						
			262	夕田古墳群	大分県日田市西有田夕田		○			
263	牧原遺跡	大分県日田市日高牧原	1号		○	組合箱式石棺		周溝西側にて木棺墓	188	
			2号		○			周溝西側にて石棺墓		
			3号		○	組合箱式石棺、木棺				
			4号		○	組合箱式石棺 箱式木棺				
264	加原遺跡	大分県豊後大野市大野町 桑原加原	S001		○	木棺? 石棺?	1~8期		99	
			S002		△			1~4期		
265	城山古墳	大分県豊後大野市緒方町 越生大久保		○		組合式石棺?			209	
266	西田古墳	大分県豊後高田市佐野		○		横穴式石室、木棺?			25	
267	乙咩神社内方形周溝墓	大分県宇佐市下乙女	○						53	
268	大塚遺跡	大分県豊後高田市水崎大塚	○						94	
269	川南古墳群	宮崎県児湯郡川南町 川南西ノ別府		○			6~10期		152	
270	丸山西原遺跡	宮崎県児湯郡川南町 川南丸山西原	△						152	
271	大迫遺跡	宮崎県児湯郡川南町 川南大迫・下東	○				弥生後期		152	
272	東平下周溝墓群	宮崎県児湯郡川南町 川南東平下	1号	○				弥生終末 ~1期	152, 153 172	
			2号	○		組合式木棺				
273	川床遺跡	宮崎県児湯郡新富町 新田川床	○				弥生終末 ~古墳		122, 153	
274	新田原古墳群	宮崎県児湯郡新富町 新田曲久保		○					7, 116 129	
275	石船古墳群	宮崎県児湯郡新富町新田		○		横穴式石室	終末期		7, 116	
276	祇園原古墳群	宮崎県児湯郡新富町新田		○			終末期		7, 129	
277	三納代古墳群	宮崎県児湯郡新富町三納代		○			9~10期		130	
278	常心塚古墳	宮崎県西都市上三財常心原		○		横穴式石室?	終末期		42, 145	
279	西都原古墳群	宮崎県西都市三宅		○		木棺?	6~7期		9, 197 198	
280	狐塚古墳	宮崎県日南市		△		横穴式石室	10~ 終末期		129	
281	南方古墳	宮崎県延岡市大峽町		○		横穴式石室?			10	
282	上多々良遺跡	宮崎県延岡市岡富町上多々良		○		列板式木棺			131	
283	百町原地区遺跡	宮崎県日向市美々津町 上百町原	△				1期?		43	
284	高崎塚原古墳群	宮崎県都城市高崎町繩瀬塚原		○		横穴式石室	終末期		116	
285	年見川遺跡	宮崎県都城市	○						19, 172	
286	蓮ヶ池横穴墓群	宮崎県宮崎市芳土岩永迫		△			終末期		8	
287	宮崎学園都市 14号地遺跡周溝墓	宮崎県宮崎市	○				弥生終末		27	

※○：墳形が確定的 △：墳形が不確定

## 第1～14表に関する参考文献

1. 赤司善彦・姫野健太郎 1995『大庭宇土ノ上遺跡』朝倉町文化財調査報告書第5集 朝倉町教育委員会
2. 赤坂 亨編 2007『箱崎』28 福岡市埋蔵文化財調査報告書第949集 福岡市教育委員会
3. 赤崎敏男編 1997『八女東部地区埋蔵文化財発掘調査概報』3 八女市文化財調査報告書第47集 八女市教育委員会
4. 赤崎敏男編 1998『辻の西遺跡(第2次調査)』八女市文化財調査報告書第51集 八女市教育委員会
5. 阿南 亨編 2003『東山ノ上A・B・C遺跡』菊池市文化財調査報告 菊池市教育委員会
6. 荒牧英雄 1992「古墳」『記録 阿蘇・上白見』熊本日日新聞情報文化センター：pp.28-30
7. 有田辰美編 1990『国指定遺跡 新田原古墳群』新富町文化財調査報告書10集 新富町教育委員会
8. 有馬義人・柳沢一男 1998『第43回埋蔵文化財研究集会 前方後円墳の終焉 発表要旨』埋蔵文化財研究会
9. 有馬義人編 1999『祇園原古墳群』2 新富町教育委員会
10. 飯田博之編 1995『東九州自動車道関連遺跡詳細分布調査報告書』2 宮崎県教育委員会
11. 井川康成 2002『清次郎原遺跡 上ノ原稲荷塚古墳』県道円座中津線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第143輯 大分県教育委員会
12. 池邊千太郎 1995『木ノ上峠横穴墓群/山伏古墳群/浅草神社古墳群』木ノ上地区重要遺跡確認調査報告書 大分県大分市教育委員会
13. 池辺元明 1989『南原古墳群』古賀町文化財調査報告書第8集 古賀町教育委員会
14. 池ノ上宏・安武千里編 2002『津屋崎町内遺跡』I 津屋崎町文化財調査報告書第19集 津屋崎町教育委員会
15. 池ノ上宏編 2001『新原・奴山古墳群』II 津屋崎町文化財調査報告書第17集 津屋崎町教育委員会
16. 池ノ上宏編 2004『津屋崎古墳群』I 津屋崎町文化財調査報告書第20集 津屋崎町教育委員会
17. 伊崎俊秋 1995『外之隈遺跡』I 九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告-35- 福岡県教育委員会
18. 井沢洋一・常松幹雄・菅波正人編 1990『入部』I 福岡市埋蔵文化財調査報告書第235集 福岡市教育委員会
19. 石川恒太郎 1979『九州縦貫自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書』3 宮崎県教育委員会
20. 石橋新次編 1988『本原遺跡』鳥栖市文化財調査報告書第36集 鳥栖市教育委員会
21. 石山 勲 1978『福岡県筑紫野市所在剣塚遺跡群の調査』九州縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告-X XIV- 福岡県教育委員会
22. 石山 勲 1979『福岡県久留米市所在祇園山・七曲山両古墳群の調査』九州縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告-X XVII- 福岡県教育委員会
23. 市川浩文編 1999『戦場古墳群』佐賀県文化財調査報告書第140集 佐賀県教育委員会
24. 井上裕弘 1973『昭和47年度山陽新幹線関係埋蔵文化財調査概報』福岡県教育委員会
25. 岩男真吾・遠部慎・河野典之・永田裕久・真野和夫・村子香織・山本哲也・吉田和彦 2002『佐野地区遺跡発掘調査報告書』豊後高田市文化財調査報告書第10集 豊後高田市教育委員会
26. 岩崎二郎編 1975『恵子若山遺跡』東洋開発株式会社
27. 岩永哲夫・北郷泰道編 1981『宮崎学園都市埋蔵文化財発掘調査概報』II 宮崎県教育委員会
28. 植木町史編纂委員会 1981「古墳時代」『植木町史』植木町：p.98
29. 上村佳典・関野泰一編 1999『田原遺跡』北九州市文化財調査報告第83集 北九州市教育委員会
30. 宇土市史編纂委員会 2002「古墳時代」『新宇土市史』資料編 第二巻 考古資料 宇土市：pp.147-151
31. 梅崎恵司編 2000『脇田丸山遺跡』2 北九州市埋蔵文化財調査報告書第241集 財団法人北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室
32. 浦田信智 1993『八反田A・B遺跡 八反畑遺跡』西合志町文化財調査報告第3集 熊本県西合志町教育委員会
33. 浦田信智 1994『石立遺跡 八反田C遺跡』西合志町文化財調査報告第4集 熊本県西合志町教育委員会
34. 浦田信智 1995『迫原遺跡』西合志町文化財調査報告第5集 熊本県西合志町教育委員会
35. 浦原宏行・多々良友博・森田孝志・友貞菜穂子・矢野佳代子・堤圭子 1984『金立開拓遺跡』佐賀県文化財調査報告書第77集 佐賀県教育委員会
36. 江本 直編 1993『柏木谷遺跡』熊本県文化財調査報告第134集 熊本県教育委員会
37. 太田正和・永田稲男編 2006『織島東分下遺跡』小城市文化財調査報告書第1集 小城市教育委員会
38. 大庭友子・二宮忠司編 1993『野方久保遺跡』II 福岡市埋蔵文化財調査報告書第348集 福岡市教育委員会
39. 大庭康時編 1988『立花寺古墳群』福岡市埋蔵文化財調査報告書第182集 福岡市教育委員会
40. 岡寺未幾 2004『下町外畑遺跡 宮野遊輪遺跡』国道386号線バイパス建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第192集 福岡県教育委員会
41. 緒方 泉 1990『石堂中後ケ谷古墳群・菜切古墳群・頭無古墳群』椎田バイパス関係埋蔵文化財調査報告-2- 福岡県教育委員会
42. 緒方吉信編 1987『困横穴墓 元地原地下式墳墓群』西都市・埋蔵文化財発掘調査報告書第2集 宮崎県西都市教育委員会
43. 緒方博文編 1989『百町原地区遺跡』日向市教育委員会

## 一 位置と環境

44. 岡部裕俊編 1995『荻浦』前原市文化財調査報告書第58集 前原市教育委員会
45. 小川秀樹 2014『渡築紫古墳群(渡築紫遺跡A区)』行橋市文化財調査報告書第50集 行橋市教育委員会
46. 小川泰樹 1995『宇野代遺跡』一般国道10号線豊前バイパス関係埋蔵文化財調査報告書第1集 福岡県教育委員会
47. 小川泰樹 2009『観音山古墳群平石IV・V群 観音山古墳群瀬戸II群』福岡県教育委員会
48. 沖田智恵・八丁由香 2004『原石棺群・原古墳群』久山町文化財調査報告第10集 久山町教育委員会
49. 小郡市史編集委員会 1996「古墳文化の成立—古墳時代前期—」『小郡市史』第一巻 通史編 小郡市：p.593
50. 小澤太郎編 2005『福聚寺古墳群』久留米市文化財調査報告書第207集 久留米市教育委員会
51. 小田和利 1997『第41回埋蔵文化財研究集会 古墳時代から古代における地域社会 発表要旨資料』埋蔵文化財研究会
52. 小田富士雄・武末純一・尾上博一・下原幸裕編 2002『国史跡矢立山古墳群』厳原町文化財調査報告書第7集 厳原町教育委員会・福岡大学考古学研究室
53. 乙咩神社・玄松子の記憶 ([http://www.genbu.net/data/buzen/otome\\_title.htm](http://www.genbu.net/data/buzen/otome_title.htm))
54. 折尾 学 1996『蒲田・水ヶ元遺跡』福岡市埋蔵文化財調査報告書第491集 福岡市教育委員会蒲田・水ヶ元遺跡調査会
55. 甲斐忠彦・真野和夫・小柳和宏 1991『免ヶ平古墳』大分県立宇佐風土記の丘歴史民俗資料館
56. 鹿央町教育委員会内鹿央町史編纂室 1989「古墳文化」『鹿央町史』上巻 鹿央町：pp.185-186
57. 鹿央町教育委員会内鹿央町史編纂室 1990「考古学関連調査資料」『鹿央町史』下巻 鹿央町：pp.1-12
58. 賀川光夫 1976「古墳時代 古墳と地方豪族層の成立」『大分の歴史 ふるさとの誕生』第1巻 大分合同新聞社：p.363
59. 賀川光夫 1981『野口遺跡 樋尻道遺跡』宇佐市教育委員会
60. 春日市史編さん委員会 1995「古墳時代」『春日市史』上巻 春日市：pp.609-634
61. 角 浩之編 1993『平原周辺遺跡』4 前原市文化財調査報告書第50集 前原市教育委員会
62. 加藤良彦編 1992『草場古墳群』福岡市埋蔵文化財調査報告書第301集 福岡市教育委員会
63. 金田一精編 1997『五丁中原遺跡』熊本市教育委員会
64. 辛嶋眞治編 2006『松田地区遺跡群』みやこ町文化財調査報告書1 みやこ町教育委員会
65. 川上秀秋・前田義人編 1983『下吉田古墳群』北九州市埋蔵文化財調査報告第21集 財団法人北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室
66. 河田聡編 1995『大宰府・佐野地区遺跡群』V 太宰府市の文化財第27集 太宰府市教育委員会
67. 川述昭人 1978『福岡県筑紫野市所在遺跡群の調査』九州縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告-X XV - 福岡県教育委員会
68. 川述昭人 1980『堂の前遺跡』嘉穂町文化財調査報告書第1集 嘉穂町教育委員会
69. 香春町史編纂委員会 2001「古墳時代」『香春町史』上巻 香春町：p.147
70. 菊鹿町史編集委員会 1996「原始・古代—考古資料及び文献資料関係調査史料—」『菊鹿町史』資料編 菊鹿町：p.93
71. 岸本 圭 2008『竹重遺跡』2 福岡県文化財調査報告書第217集 福岡県教育委員会
72. 木下 巧編 1975『本川原遺跡』佐賀県文化財調査報告書第32集 佐賀県教育委員会
73. 木下 巧編 1976『姫方原遺跡』佐賀県文化財調査報告書第33集 佐賀県教育委員会
74. 木下 巧編 1976『戊遺跡』佐賀県文化財調査報告書第36集 佐賀県教育委員会
75. 木下 巧編 1978『久米遺跡群』佐賀県文化財調査報告書第42集 佐賀県教育委員会
76. 清田純一編 1995『史跡・塚原古墳群』熊本県城南町教育委員会
77. 久住猛雄編 2006『元岡・桑原遺跡群』6 福岡市教育委員会
78. 隈昭志・緒方勉・杉村彰一編 1976『塚原古墳群調査報告書』熊本県教育委員会
79. 隈昭志編 1975『塚原』熊本県文化財調査報告書第16集 熊本県教育委員会
80. 熊代昌之編 2002『徳重本村』宗像市文化財調査報告書第52集 宗像市教育委員会
81. 熊本県教育委員会 1987『オブサン古墳』第一冊(調査編)熊本県文化財調査報告第87集 熊本県教育委員会
82. 熊本日日新聞 「県内最大級の方形周溝墓 飛田遺跡(熊本市)で墓群確認 古墳時代中期 権力者を埋葬か」2011年2月17日付朝刊
83. 熊本の風土とところ編集委員会 1980『熊本の上代遺跡』熊本の風土とところシリーズ 第二集 18 熊本日日新聞社
84. 蔵富士寛・橋本達也 2011「古墳文化の地域的諸相」『講座日本の考古学7 古墳時代』上 青木書店
85. 蔵富士寛編 1997『椿原古墳』宇土市埋蔵文化財調査報告書第20集 熊本県宇土市教育委員会
86. 栗原眞・平田由美 2000『上ノ原平原遺跡』主要地方道円座中津線(相原工区)道路改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第113輯 大分県教育委員会
87. 小池史哲 1987『柿原遺跡群』III 九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告-12- 福岡県教育委員会
88. 小池史哲 1990『柿原遺跡群』IV 九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告-19- 福岡県教育委員会
89. 杠一義編 1981『香田遺跡』佐賀県文化財調査報告書第57集 佐賀県教育委員会

90. 江田豊・友岡信彦 1986『上ノ原遺跡群』V 大分県教育委員会
91. 小倉小五・佐藤良二郎 1987『駅館川流域遺跡群発掘報告書』II 宇佐市文化財調査報告書第3集 宇佐市教育委員会
92. 児玉眞一・中間研志・水ノ江和同 1994『治部ノ上遺跡 座禪寺遺跡』九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告-32- 福岡県教育委員会
93. 児玉眞一 1989『乙隈天道町遺跡』福岡県文化財調査報告書第86集 福岡県教育委員会
94. 後藤一重 1981『菅生台地と周辺の遺跡』VI 竹田市教育委員会
95. 小林義彦編 1987『唐原遺跡』福岡市埋蔵文化財調査報告書第161集 福岡市教育委員会
96. 小林義彦編 1994『飯倉唐木遺跡』福岡市埋蔵文化財調査報告書第387集 福岡市教育委員会
97. 小松譲編 1991『都谷遺跡』佐賀県文化財調査報告書第104集 佐賀県教育委員会
98. 小柳和宏 1984『菅生台地と周辺の遺跡』IX 竹田市教育委員会
99. 小柳和宏編 2014『加原遺跡』大分県教育庁埋蔵文化財センター調査報告書第73集 大分県教育庁埋蔵文化財センター
100. 坂本嘉弘・児玉美香・衛藤麻衣 1999『瀧ノ原遺跡』大分県教育委員会
101. 坂本嘉弘 1999『陣ヶ台遺跡』玖珠町文化財調査報告書第9集 玖珠町教育委員会
102. 佐々木隆彦 1999『原の東遺跡』II 九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告-53- 福岡県教育委員会
103. 佐藤一郎編 1988『田村遺跡』V 福岡市埋蔵文化財調査報告書第192集 福岡市教育委員会
104. 佐藤昭則・茂和敏編 2003『片縄山古墳群』那珂川町文化財調査報告書第61集 那珂川町教育委員会
105. 佐藤昭則編 1987『貝徳寺古墳』那珂川町文化財調査報告書第16集 那珂川町教育委員会
106. 佐藤良二郎・川谷浩・江藤和幸 1997『台ノ原遺跡7次調査 小部遺跡13次調査 法鏡寺遺跡2次遺跡 瓦塚遺跡4次調査 虚空蔵寺跡11次調査 別府遺跡11次調査』宇佐市教育委員会
107. 澤田康夫編 1985『小丸古墳群』那珂川町文化財調査報告書第13集 那珂川町教育委員会
108. 滋賀県立埋蔵文化財センター 1982『西日本における方形周溝墓をめぐる諸問題 資料』第11回埋蔵文化財研究集会 埋蔵文化財研究会
109. 七城町誌編さん委員会 1991「古代」『七城町誌』七城町：pp.77-81
110. 七田忠昭・森田孝志・田島春己・草野誠司・桑原幸則・吉本健一編 1992『吉野ヶ里』佐賀県文化財調査報告書第113集 佐賀県教育委員会
111. 篠原浩之・加藤和歳編 2011『平塚大願寺遺跡』II 朝倉市文化財調査報告書第12集 朝倉市教育委員会
112. 芝 徹 1985『九州横断自動車道建設に伴う発掘調査概報』大分県教育委員会
113. 渋谷忠章・村上久和・田中裕介・清原史代 1988『一般国道10号線中津バイパス埋蔵文化財発掘調査報告書』I 大分県教育委員会
114. 渋谷忠章 1983『大分県遺跡詳細分布調査概報』2 大分県教育委員会
115. 島 孝寿編 2001『永田古墳群』鳥栖市文化財調査報告書第66集 鳥栖市教育委員会：p.5
116. 下原幸裕 2006『西日本の終末期古墳』中国書店
117. 白石康弘 2001『下唐原大久保楢迫遺跡 下唐原大久保遺跡 下唐原西方遺跡 下唐原龍右衛門遺跡』大平村文化財調査報告書第11集 大平村教育委員会
118. 新修志摩町史編集委員会 2009「東アジア世界とヤマト政権下の志摩地域」『新修 志摩町史』上巻 志摩町：p.182
119. 新熊本市史編纂委員会 1996「古墳時代」『新熊本市史』史料編 第1巻 熊本市：pp.716-721
120. 新熊本市史編纂委員会 1998「古墳時代」『新熊本市史』通史編 第1巻 熊本市：p.612
121. 新宅信久 1997『花ヶ浦古墳』粕屋町文化財調査報告書第13集 福岡県糟屋郡粕屋町教育委員会
122. 新富町教育委員会 1986『川床遺跡』宮崎県新富町文化財調査報告書第5集
123. 末永浩一編 2006『能満寺古墳群』第3次調査 上毛町教育委員会文化財係
124. 末永弥義・長嶺正秀編 1994『甲塚方墳』豊津町文化財調査報告書 豊津町教育委員会
125. 菅波正人編 1998『野方岩名限1 藤崎12』福岡市埋蔵文化財調査報告書第573集 福岡市教育委員会
126. 杉本岳史編 2000『寺福童遺跡』小郡市文化財調査報告書第144集 小郡市教育委員会・小郡市埋蔵文化財調査センター
127. 第9回九州前方後円墳研究会実行委員会 2006『前期古墳の再検討』九州前方後円墳研究会
128. 第10回九州前方後円墳研究会実行委員会 2007『九州島における中期古墳の再検討』九州前方後円墳研究会
129. 第11回九州前方後円墳研究会実行委員会 2008『後期古墳の再検討』九州前方後円墳研究会
130. 第12回九州前方後円墳研究会実行委員会 2009『終末期古墳の再検討』九州前方後円墳研究会
131. 高浦哲編 2011『上多々良遺跡』延岡市文化財調査報告書第45集 延岡市教育委員会
132. 高瀬哲郎・百崎正子・中摩由香編 1992『朝日北遺跡』佐賀県文化財調査報告書第110集 佐賀県教育委員会
133. 高瀬哲郎編 1989『老松山遺跡』佐賀県文化財調査報告書第92集 佐賀県教育委員会
134. 高橋徹・桑原幸則 1986『九州横断自動車道建設に伴う発掘調査概報-日田地区-』大分県教育委員会
135. 高橋 徹 1989『草場第二遺跡』九州横断自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書(1) 大分県教育委員会



## 一 位置と環境

136. 高見 淳編 2006『小野崎遺跡』菊池市文化財調査報告第1集 熊本県菊池市教育委員会
137. 武田光正・藤田さゆり 1997『島津・丸山古墳群』遠賀町文化財調査報告書第9集 遠賀町教育委員会
138. 竹中哲郎・織田健吾編 2006『龍王遺跡(倉知川古墳)』雲仙市文化財調査報告書(概報)第1集 雲仙市教育委員会
139. 太宰府市史編集委員会 1992「古墳時代の遺跡と遺物」『太宰府市史』考古資料編 太宰府市：pp.93-132
140. 田中良之・本田光子・小倉正五・林一也・川谷浩・江藤和幸 2001『今年度の調査 御幡・村際遺跡2次調査 高森城跡5次調査 別府・折戸ノ上遺跡の調査』宇佐地区遺跡群発掘調査概報XIII 宇佐市教育委員会
141. 谷口俊治編 2011『城野遺跡』1 北九州市埋蔵文化財調査報告書第447集 財団法人北九州芸術文化振興財団埋蔵文化財調査室
142. 玉永光洋 1983『楠野』大分県文化財調査報告第63輯 大分県教育委員会
143. 築城町誌編纂委員会 2006「古墳時代」『築城町誌』上巻 築城町：p.101
144. 長陽村史編纂室 2004「古墳時代」『長陽村史』長陽村：p.200
145. 津曲大祐編 2003『外原遺跡群』西都市埋蔵文化財発掘調査報告書第34集 西都市教育委員会
146. 堤 圭子編 1985『九州横断自動車道関係埋蔵文化財発掘調査概報』第8集 佐賀県教育委員会
147. 堤 安信編 1981『九州横断自動車道関係埋蔵文化財発掘調査概報』第4集 佐賀県教育委員会
148. 寺嶋克史 2002『宇土遺跡』浮羽町文化財調査報告書第16集 浮羽町教育委員会
149. 徳永博文編 1993『松ノ尾古墳群』志免町文化財調査報告書第4集 志免町教育委員会
150. 豊崎晃一・清田純一編 1986『塚原古墳群発掘調査報告書』城南町文化財調査報告第5集 熊本県城南町教育委員会
151. 中島直幸編 1987『双水柴山遺跡』唐津市文化財調査報告書第20集 唐津市教育委員会
152. 長津宗重・日高孝治・繁富勉編 1983『川南町の埋蔵文化財』宮崎県児湯郡川南町教育委員会
153. 長津宗重編 1993『朴木遺跡』高崎町文化財調査報告第4集 宮崎県北諸県郡高崎町教育委員会
154. 長嶺正秀・末永弥義編 1985『下稗田遺跡』行橋市文化財調査報告書第17集 行橋市教育委員会
155. 長嶺正秀 1987『前田山遺跡』行橋市文化財調査報告書第19集 行橋市教育委員会
156. 中原 博 2014『長井作り山遺跡』行橋市文化財調査報告書第52集 行橋市教育委員会
157. 中村幸史郎編 2008『方保田東原遺跡』9 山鹿市文化財調査報告書第6集 熊本県山鹿市教育委員会
158. 中村昇平編 2008『ウトグチC遺跡』春日市文化財調査報告書第54集 春日市教育委員会
159. 長家伸・榎本義嗣編 1999『那珂』22 福岡市埋蔵文化財調査報告書第597集 福岡市教育委員会
160. 長家 伸編 2000『部木古墳群』福岡市埋蔵文化財調査報告書第623集 福岡市教育委員会
161. 西合志町史編纂協議会 1994「考古」『西合志町史』資料編 西合志町：pp.32-57
162. 西田大輔編 1999『相島積石塚群』新宮町埋蔵文化財発掘調査報告書第16集 新宮町教育委員会
163. 野田拓治 1982「古式土師器の成立と展開一特に中部九州における編年試案一」『森貞次郎博士古希記念古文化論集』下巻 森貞次郎博士古希記念論文集刊行会：pp.947-948
164. 橋本康夫・鶴島俊彦編 1983『上鶴頭遺跡』熊本県文化財調査報告第63集 熊本県教育委員会
165. 長谷部善一・吉田徹也・稲葉貴子編 2013『上日置女夫木遺跡』熊本県文化財調査報告第278集 熊本県教育委員会
166. 羽田野光洋 1979『菅生台地と周辺の遺跡』竹田市教育委員会
167. 浜石哲也編 1982『藤崎遺跡』福岡市埋蔵文化財調査報告書第80集 福岡市教育委員会
168. 浜田信也 1985『浜山・千鳥遺跡』古賀町文化財調査報告書第5集 古賀町教育委員会
169. 林一也・佐藤良二郎・川谷浩 1998『塔ノ本遺跡 瓦塚遺跡5次調査 法鏡寺遺跡3次調査 別府遺跡12次調査 小部遺跡14次調査 台ノ原遺跡8次調査 川部遺跡2次調査 弥勒寺跡1次調査 虚空蔵寺跡12次調査』宇佐地区遺跡群発掘調査概報X 宇佐市教育委員会
170. 東中川親子・高瀬哲郎・中島直幸編 1980『大門西遺跡』佐賀県文化財調査報告書第51集 佐賀県教育委員会
171. 久山高史 1998『西田遺跡』鳥栖市文化財調査報告書第56集 鳥栖市教育委員会
172. 日高正晴・山中悦雄編 1982『東平下周溝墓群』川南町文化財調査報告1 宮崎県川南町教育委員会
173. 飛野博文編 1990『名残』III 宗像市文化財調査報告書第25集 宗像市教育委員会
174. 飛野博文 1999『野添遺跡』県道大久保厚川線関係埋蔵文化財調査報告第141集 福岡県教育委員会
175. 飛野博文編 1994『能満寺古墳群』大平村文化財調査報告書第9集 大平村教育委員会
176. 飛野博文 2010『観音山古墳群平石Ⅲ群』九州新幹線関係埋蔵文化財調査報告第15集 福岡県教育委員会
177. 平島文博編 2009『国指定遺跡 焼ノ峠遺跡』発掘調査及び保存修理事業報告書第10集 筑前町教育委員会
178. 平ノ内幸治 1986『ウソフキ遺跡』宇美町文化財調査報告書第5集 宇美町教育委員会
179. 福岡県教育委員会 1984『立野遺跡』2 九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告-5- 福岡県教育委員会
180. 副島邦弘 1970『九州縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告』I 福岡県教育委員会
181. 細川金也編 2007『吉野ヶ里遺跡大曲一の坪地区・枝町遺跡』佐賀県文化財調査報告書第172集 佐賀県教育委員会



182. 前田達男・木島慎治 2000『吉村遺跡群 I 吉村遺跡 4 区』佐賀市文化財調査報告書第 117 集 佐賀市教育委員会
183. 前田達男・古賀彦彰編 2002『増田遺跡群』VI 佐賀市文化財調査報告書第 130 集 佐賀市教育委員会
184. 前田達男編 1997『東千布遺跡』III 佐賀市文化財調査報告書第 78 集 佐賀市教育委員会
185. 前原市教育委員会 1994『荻浦の文化財』前原市荻浦地区土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財包蔵地発掘調査の速報 3
186. 益城町史編さん委員会 1990「古墳時代」『益城町史』通史編 益城町：pp. 72-78
187. 松浦一之介編 2004『箱崎』21 福岡市埋蔵文化財調査報告書第 815 集 福岡市教育委員会
188. 松下桂子 1997『牧原遺跡』日田市埋蔵文化財調査報告書第 12 集 日田市教育委員会
189. 松見裕二編 2002『横隈上内畑遺跡』6 小都市埋蔵文化財調査報告書第 162 集 小都市教育委員会
190. 松村道博編 2010『草場古墳群』2 福岡市埋蔵文化財調査報告書第 1104 集 福岡市教育委員会
191. 松本雅明著作集編集委員会 1988「古墳文化の成立」『火ノ国の考古・古代史論集—松本雅明著作集』8 弘生書林：p. 66
192. 真野和夫 1978『宇佐市川部・高森地区緊急発掘調査概報』大分県教育委員会
193. 丸山康時編 2007『ウトグチ A 遺跡』春日市文化財調査報告書第 48 集 春日市教育委員会
194. 宮井義朗編 1998『雑餉隈遺跡』4 福岡市埋蔵文化財調査報告書第 569 集 福岡市教育委員会
195. 宮内克己 2002『小城原遺跡・中原遺跡』大分県文化財調査報告書第 125 集・久住町文化財調査報告書第 9 集 大分県教育委員会・久住町教育委員会
196. 宮内克己 2002『仏原千人塚古墳群』大分県文化財調査報告書第 131 輯・久住町文化財調査報告書第 10 集 大分県教育委員会・久住町教育委員会
197. 宮崎県教育委員会文化財課 1984『特別史跡西都原古墳群』西都原風土記の丘 宮崎県教育委員会
198. 宮崎県文化財課 宮崎県立西都原考古博物館 2014『特別史跡 西都原古墳群調査整備活性化事業計画書』宮崎県教育委員会
199. 宮田浩之 1988『津古生掛遺跡』II 小都市文化財調査報告書第 44 集 小都市教育委員会
200. 宮田浩之 1991『三国地区遺跡群』小都市文化財調査報告書第 72 集 小都市教育委員会
201. 宮田浩之 1992『津古片曾葉遺跡』小都市文化財調査報告書第 78 集 小都市教育委員会
202. 宮田浩之 1995『三国地区遺跡群』小都市文化財調査報告書第 97 集 小都市教育委員会
203. 宮田浩之 2001『横隈上内畑遺跡』3 小都市文化財調査報告書第 155 集 小都市教育委員会
204. 村上久和・吉留秀敏・佐藤良二郎 1982『上ノ原遺跡群』I 中津バイパス関係埋蔵文化財調査概要 大分県教育委員会
205. 村上久和・西哲弘・友岡信彦・染矢和徳 1992『九州横断自動車道関係埋蔵文化財発掘調査概報—日田～玖珠間—』第 2 集 大分県教育委員会
206. 村上久和 1999『夕田遺跡群』九州横断自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書 14 集 大分県教育委員会
207. 毛利哲久編 2001『忠隈古墳群』穂波町文化財調査報告書第 13 集 穂波教育委員会
208. 森下功編 1973『熊本市東部地区文化財調査報告書』熊本市教育委員会
209. 諸岡郁・田中裕介・玉川剛司 2014『豊後大野市内遺跡発掘調査概要報告書』4 豊後大野市教育委員会
210. 柳田康雄・緒方泉・副島邦弘・横田賢次郎・横田義章・水ノ江和同 1997『徳永川ノ上遺跡 III』一般国道 10 号線椎田道路関係埋蔵文化財調査報告書第 9 集 福岡県教育委員会
211. 柳田康雄 1974『昭和 48 年度山陽新幹線関係埋蔵文化財調査概報』福岡県教育委員会
212. 柳田康雄編 1984『萱葉古墳群』志免町文化財調査報告書第 2 集 志免町教育委員会
213. 柳田康雄編 2001『城山遺跡群』IV 夜須町文化財調査報告書第 54 集 夜須町教育委員会
214. 山口讓治編 1999『那珂』23 福岡市埋蔵文化財調査報告書第 598 集 福岡市教育委員会
215. 山中英彦 2005『稲童古墳群』行橋市文化財調査報告書第 32 集 行橋市教育委員会
216. 山野洋一編 1982『阿志岐古墳群』筑紫野市文化財調査報告書第 7 集 筑紫野市教育委員会
217. 山本信夫編 1980『宮ノ本遺跡』太宰府町の文化財第 3 集 太宰府町教育委員会
218. 屋山 洋編 2014『藤崎遺跡』19 福岡市埋蔵文化財調査報告書第 1240 集 福岡市教育委員会
219. 吉武学編 2008『五十川遺跡』5 福岡市埋蔵文化財調査報告書第 1019 集 福岡市教育委員会
220. 吉留秀敏・山口讓二・城戸康利編 1988『井尻 B 遺跡』福岡市埋蔵文化財調査報告書第 175 集 福岡市教育委員会
221. 吉留秀敏編 1987『堤ヶ浦古墳群発掘調査報告書』福岡市埋蔵文化財調査報告書第 151 集 福岡市教育委員会
222. 米倉秀紀編 2001『羽根戸南古墳群』福岡市埋蔵文化財調査報告書第 661 集 福岡市教育委員会
223. 渡邊隆行編 2000『横隈上内畑遺跡』2 小都市文化財調査報告書第 143 集 小都市教育委員会

## 二 調査経過

### 1. 過去の調査（第1～4次調査）

平原古墳群は1981年に県道213号線（内牧坂梨線）の拡幅工事の際に発見された。この際1号墳が熊本県教育委員会によって調査された。その結果、1号墳は箱式石棺を主体部とする円墳であると推測され、石棺内から鉄剣1点、竪櫛1点および2体分の歯が出土した。また周囲に円墳3基と石棺1基が存在することも指摘された。続いて1982・1983年には熊本短期大学（現熊本学園大学）文化財研究会が2・3・4号墳（当時の4号墳は現在の6号墳にあたる）の測量調査を行った。この一連の調査を第1次調査と呼称する。

この後暫く調査が行われないが、1989年の林道工事の際、箱式石棺が発見された。また2006年には6号墳南側の溝状部より古代の火葬墓が発見され、阿蘇市教育委員会が発掘調査を行った。この際に火葬墓北側の円墳を6号墳、6号墳に近接する円墳を7号墳とし、測量図が作成された。

これより後の熊本大学文学部考古学研究室による調査を第2～4次調査と呼称する。

まず2011・2012年に第2・3次調査を行った。第2次調査では熊本県地域の古墳動向の解明を目的に、6・7号墳の測量調査を行った。第3次調査では6号墳の墳丘規模と構造の解明を目指し発掘調査を行った。調査区を墳丘の東・北・西側に設け、名称を東1・北1・西1トレンチとした。

東1・北1トレンチでは、墳端平坦面と段築1段目を検出し、墳端平坦面の範囲を確認した。墳端平坦面は地山のアカホヤ層を整地して成形されていた。西1トレンチでは墳端平坦面の一部、段築1段目および段築テラス面、段築2段目下部を検出した。墳端平坦面はアカホヤ層より下位のローム層まで整地して成形されていた。なお各トレンチにおいて周溝は存在しなかった。

以上から6号墳は2段築成で、各トレンチの1段目基底石の位置により東西約31m、南北約28mの円墳だと推定した。また遺物は壺形埴輪片と土師器片が出土したが、原位置を留めていなかった。壺形埴輪は集成編年4期、土師器は6期前後と判断され、編年的位置づけが異なった。さらに第3次調査の際に古墳の分布を確認したところ、1982・1983年時の4号墳が現在の6号墳にあたることが判明した。これにより第1次調査での古墳番号と、現在の古墳番号（緒方編2000、2011）に混乱が生じていることが明らかとなった。

第3次調査の結果、墳端位置の確定、段築構造・墳頂平坦面の構造解明のためにさらなる調査が必要となった。また出土遺物の時期の違い、古墳番号の混乱が課題として残った。

2013年の第4次調査は6号墳の墳端位置の確定、段築構造・墳頂平坦面の構造解明を目的として行った。調査区を6号墳墳丘の北・西・南側に設け、名称を北1・西1・南1トレンチとした。このうち北1・西1トレンチは、第3次調査での調査区を墳頂方向に拡張したものである。

北1トレンチでは段築テラス面と段築2段目を確認し、北1・西1トレンチの両方で墳頂平坦面を検出した。南1トレンチでは墳端平坦面と段築1段目を検出した。この際、墳丘南側では旧地形の制約からアカホヤ層まで整地した後に、盛土をして墳端平坦面が成形されていることが判明した。

南1トレンチで基底石の位置が確認できたため、6号墳の規模を東西約31m、南北約30m、高さ約3.5～4.5mと推定した。墳端平坦面の幅は約2m、段築テラス面の幅は約1.5mと推測した。遺物は壺形埴輪片と土師器片が出土したが、原位置を留めていなかった。また九州各地の壺形埴輪と当古墳の壺形埴輪を比較し、時期の再検討を行ったが、土師器との時期差は解消できなかった。

第4次調査の結果、段築2段目と墳頂平坦面の様相および埋葬施設の解明、壺形埴輪と土師器の編年的位置づけの違い、古墳分布の問題などが課題として残された。(前田)

## 2. 今回の調査(第5次調査)

第5次調査は、6号墳の埋葬施設・墳頂平坦面・段築構造の解明および2号墳・3号墳の墳丘の状況と古墳分布の確認を目的として、2014年8月18日から9月12日までの計26日間で実施した。

6号墳の発掘調査では、調査区を墳丘東側斜面と墳頂に設け、墳頂の調査区は中央にある樹木のため西区と東区に分割した。調査区の名称はそれぞれ東1トレンチ・墳頂トレンチ西区・墳頂トレンチ東区である。東1トレンチは、墳丘東側の段築構造の解明のため、一昨年度の調査で設定したトレンチを墳頂方向に拡張したものである。墳頂トレンチ西区・東区は埋葬施設および墳頂平坦面構造解明のために今年度新たに設けたものである。

東1トレンチでは段築1段目上部から段築2段目の葺石を新たに検出し、2段目基底石の位置を確定した。また段築テラス面に小礫が敷かれていることと、墳頂平坦面までの墳丘構造を確認した。墳頂トレンチでは、墳頂に小礫が敷かれていることを確認した。さらに、西区・東区の両方で断ち割り調査を行い、両区で墳頂の盛土状況を明らかにし、東区では盗掘の掘り込みラインと考えられるものを検出した。しかし両区において埋葬施設を確認することはできなかった。西区と東区のあいだに生えた樹木のため、埋葬施設の確認等さらなる調査を今回のトレンチで行うのは困難であり、今後新たなトレンチの設定が必要であると考えられる。また、今年度の調査では墳丘南側の段築2段目部分の調査を行えなかったため、さらなる調査が必要である。

測量調査は、トータルステーションと電子平板を用いた変化点測量法によって行った。調査終了後のデータ処理は主として杉井健が担当した。測量範囲は6号墳から2・3号墳までのあいだ、2・3号墳南側の周辺道路までである。測量の結果、2・3号墳の墳形・規模を確認することができ、3号墳が方墳である可能性も現れた。6号墳と2・3号墳のあいだに存在するとされていた4・5号墳は、従来もその存在に疑問がもたれていたが、今回の測量調査においても確認できず、あらためて今までの古墳番号と実際の古墳との対応関係における問題点が示された。

なお、6号墳からは壺形埴輪片と土師器片が出土したが、原位置に留まるものはなかった。3号墳からは埴輪片、土師器片、須恵器片を採集した。

昨年度は台風のために現地説明会を行うことができなかったが、今年度は8月30日に実施し、30名余りの参加者を得た。地元住民の方々からは多くのご援助、励ましの声をいただいた。(松本)



第5図 墳頂トレンチ発掘調査風景



第6図 平原2号墳測量調査風景

二 調査経過

第 15 表 平原古墳群基準点の現場座標

基準点名	X座標 (m)	Y座標 (m)	標高	備考
H1	0.000	0.000	529.532	消失
H1-1	-1.781	0.000	529.314	H1の移設
H2	4.905	0.000	529.605	6号墳墳頂
H3	28.342	0.000	527.395	7号墳墳頂
H4	-16.739	0.000	523.664	
H5	3.852	-7.374	527.635	
H6	-1.618	-10.344	526.638	
H7	-9.068	-5.066	526.103	
H8	-5.944	5.548	526.691	
H9	1.667	9.088	527.072	
H10	9.955	6.007	527.533	
H11	15.509	11.711	524.948	
H12	36.550	-0.238	526.542	
H13	25.017	-10.792	525.472	
H14	15.036	-13.514	524.848	
H15	-13.344	-10.655	523.812	
H16	-8.294	-15.279	523.991	
H17	-5.797	14.059	524.312	
H18	-1.946	-17.397	524.036	
H19	4.395	-17.816	523.974	
H20	-12.652	7.721	523.953	
H21	0.800	14.968	524.618	
H22	16.000	0.762	526.516	
H23	-21.667	-5.206	522.361	
H24	-31.647	-3.588	520.336	
H25	-29.146	-13.091	519.720	
H26	-40.964	-7.516	518.012	
H27	-45.729	-7.259	517.523	
H28	-36.482	-14.920	518.213	
H29	-51.322	-7.077	515.958	
H30	-56.631	-10.731	514.058	
H31	-61.597	-5.458	513.393	
H32	-87.000	1.904	512.938	3号墳墳頂
H33	-76.534	2.161	511.825	
H34	-86.749	-8.551	510.457	
H35	-87.140	7.545	512.114	
H36	-103.221	1.492	509.377	
H37	-120.295	1.082	512.938	2号墳墳頂
H38	-114.098	1.235	512.584	
H39	-120.168	-3.972	512.223	
H40	-120.401	5.348	512.435	
H41	-124.869	0.967	512.585	
H42	-79.027	11.771	510.547	
H43	-95.740	14.367	509.231	
H44	-94.396	7.086	511.255	
H45	-97.072	-8.408	509.857	
H46	-107.885	12.778	508.700	
H47	-104.955	-10.008	508.219	
H48	-115.280	-8.100	510.109	
H49	-114.114	-15.676	506.986	
H50	-120.804	-15.591	506.516	
H51	-129.104	-10.438	507.658	
H52	-134.204	-5.227	507.998	
H53	-132.786	0.941	509.422	
H54	-127.539	5.005	511.094	
H55	-124.265	9.619	509.652	
H56	-119.782	9.678	510.319	
H57	-114.980	13.200	508.779	
H58	-45.935	6.217	515.061	
H59	-94.929	-17.537	507.238	
H60	-108.913	-30.867	501.789	
H61	-114.857	-38.981	499.562	
H62	-47.530	20.342	510.939	
E1	-16.881	0.515	523.631	東1Tr. 下方
E2	-10.376	0.521	525.617	消失
E3	-1.877	0.542	529.211	東1Tr. 墳頂付近
N1	0.091	16.346	524.365	北1Tr. 下方
N2	0.703	10.370	526.414	消失
N3	1.430	3.415	529.453	北1Tr. 墳頂付近
W1	19.849	1.358	526.055	西1Tr. 下方
W2	12.847	1.149	527.817	消失
W3	5.845	0.914	529.629	西1Tr. 墳頂付近
W4	7.348	0.966	529.440	西1Tr. 墳頂付近
S1	5.867	-19.844	523.327	南1Tr. 下方
S2	4.109	-11.018	526.453	南1Tr. 上方
T1	7.748	1.661	529.320	墳頂Tr. 西側
T2	-1.387	-0.942	529.343	墳頂Tr. 東側

第 16 表 平原古墳群基準点の国土座標 (世界測地系)

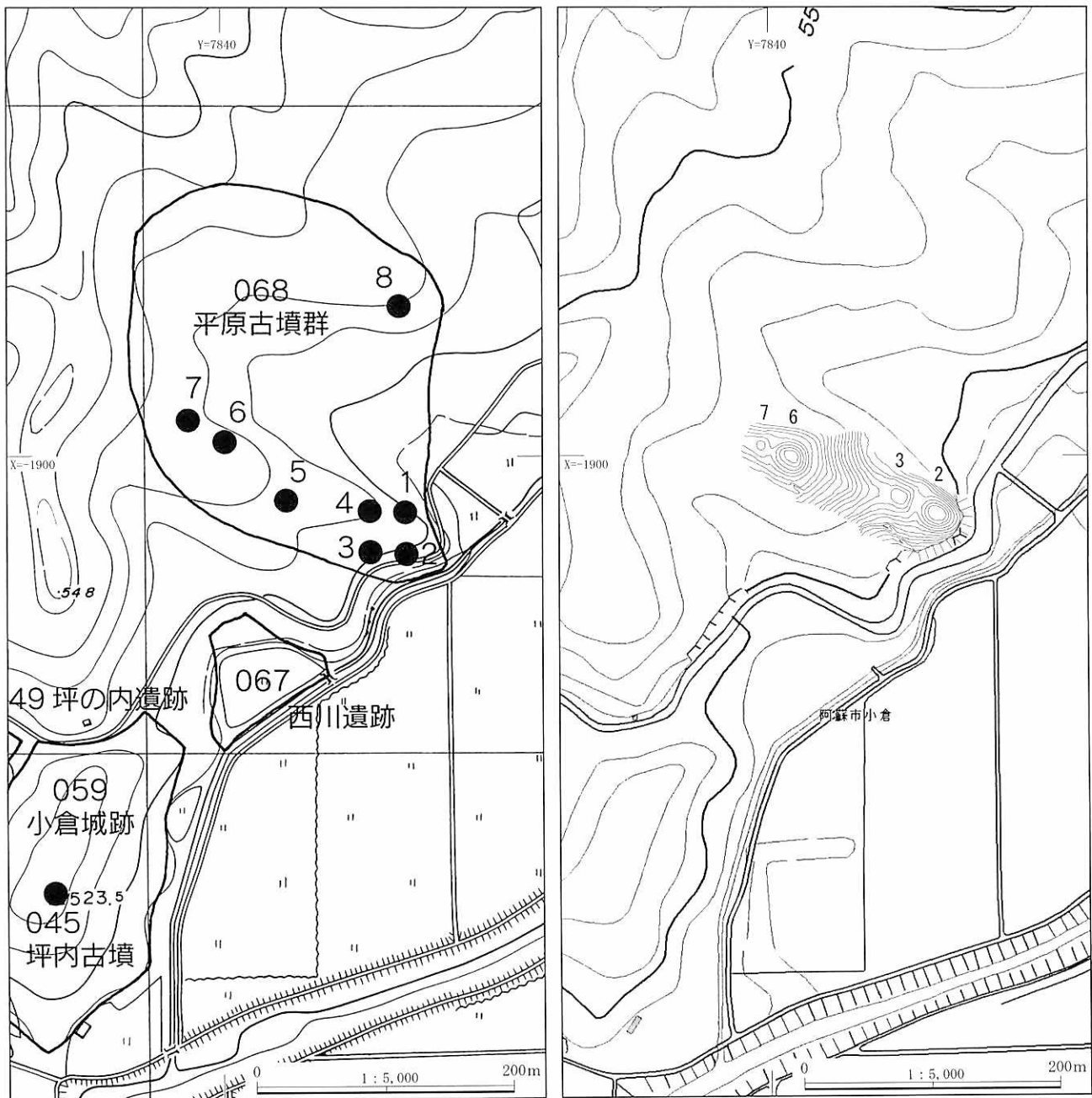
基準点名	X座標 (m)	Y座標 (m)	標高	備考
H1	-1902.473	7860.136	529.532	消失
H1-1	-1903.134	7861.790	529.314	H1の移設
H2	-1900.652	7855.582	529.605	6号墳墳頂
H3	-1891.951	7833.822	527.395	7号墳墳頂
H4	-1908.687	7875.677	523.664	
H5	-1907.889	7853.822	527.635	
H6	-1912.678	7857.798	526.638	
H7	-1910.543	7866.674	526.103	
H8	-1899.529	7867.714	526.691	
H9	-1893.416	7861.962	527.072	
H10	-1893.200	7853.123	527.533	
H11	-1885.842	7850.084	524.948	
H12	-1889.125	7826.113	526.542	
H13	-1903.205	7832.903	525.472	
H14	-1909.438	7841.159	524.848	
H15	-1917.320	7868.570	523.812	
H16	-1919.738	7862.164	523.991	
H17	-1891.572	7870.738	524.312	
H18	-1919.348	7855.484	524.036	
H19	-1917.383	7849.441	523.974	
H20	-1900.002	7874.749	523.953	
H21	-1888.279	7864.950	524.618	
H22	-1895.826	7845.564	526.516	
H23	-1915.350	7878.320	522.361	
H24	-1917.553	7888.186	520.336	
H25	-1925.448	7882.336	519.720	
H26	-1924.659	7895.379	518.012	
H27	-1926.190	7899.898	517.523	
H28	-1929.869	7888.469	518.213	
H29	-1928.097	7905.158	515.958	
H30	-1933.460	7908.731	514.058	
H31	-1930.408	7915.299	513.393	
H32	-1933.004	7941.618	512.938	3号墳墳頂
H33	-1928.880	7931.996	511.825	
H34	-1942.618	7937.503	510.457	
H35	-1927.819	7943.842	512.114	
H36	-1939.409	7956.525	509.377	
H37	-1946.128	7972.225	512.938	2号墳墳頂
H38	-1943.685	7966.528	512.584	
H39	-1950.773	7970.231	512.223	
H40	-1942.207	7973.907	512.435	
H41	-1947.933	7976.429	512.585	
H42	-1920.883	7937.878	510.547	
H43	-1924.678	7954.359	509.231	
H44	-1930.939	7950.408	511.255	
H45	-1946.317	7947.141	509.857	
H46	-1930.662	7965.045	508.700	
H47	-1950.729	7953.866	508.219	
H48	-1952.791	7964.160	510.109	
H49	-1959.392	7960.265	506.986	
H50	-1961.797	7966.508	506.516	
H51	-1960.094	7976.127	507.658	
H52	-1957.149	7982.797	507.998	
H53	-1950.896	7983.770	509.422	
H54	-1945.175	7980.407	511.094	
H55	-1939.676	7979.080	509.652	
H56	-1937.957	7974.940	510.319	
H57	-1932.904	7971.789	508.779	
H58	-1913.754	7905.092	515.061	
H59	-1953.998	7941.762	507.238	
H60	-1971.565	7949.796	501.789	
H61	-1981.306	7952.303	499.562	
H62	-1901.232	7911.817	510.939	
E1	-1908.262	7876.000	523.631	東1Tr. 下方
E2	-1905.841	7869.963	525.617	消失
E3	-1902.667	7862.080	529.211	東1Tr. 墳頂付近
N1	-1887.263	7866.120	524.365	北1Tr. 下方
N2	-1892.584	7863.333	526.414	消失
N3	-1898.771	7860.076	529.453	北1Tr. 墳頂付近
W1	-1893.843	7842.211	526.055	西1Tr. 下方
W2	-1896.637	7848.635	527.817	消失
W3	-1899.454	7855.049	529.629	西1Tr. 墳頂付近
W4	-1898.848	7853.672	529.440	西1Tr. 墳頂付近
S1	-1918.719	7847.322	523.327	南1Tr. 下方
S2	-1911.177	7852.231	526.453	南1Tr. 上方
T1	-1898.054	7853.559	529.320	墳頂Tr. 西側
T2	-1903.863	7861.074	529.343	墳頂Tr. 東側



### 三 平原古墳群における古墳の分布

平原古墳群は、熊本県阿蘇市山田字平原に所在する。当古墳群の存在が確認されたのは1981年であったが、それ以来幾度かその古墳分布が示されてきた（清田編 1982、熊本県教委 1998、緒方編 2000）。しかし、以前にも整理したように（杉井 2013）、これまでに提示された古墳分布や古墳番号の教え方にはいくつかの齟齬が見られる。そこで以下では、今回の測量調査の結果をふまえ、あらためて当古墳群の古墳分布について整理しておきたい。

第7図-1（以下、地図1と表記）は『阿蘇町遺跡地図』（緒方編 2000）で示された平原古墳群の古墳分布、2（同、地図2）は今回作成した測量図（第8図）を国土地理院ホームページ電子国土



1. 『阿蘇町遺跡地図』（2000年）の平原古墳群古墳分布

2. 平原古墳群2・3・6・7号墳の分布（2014年測量図の挿入）

第7図 平原古墳群古墳分布図の比較



Web (<http://www.gsi.go.jp/>) の地図に挿入したものである。測量図は等高線間隔を 1 m とし、平面直角座標  $X = -1900$ ・ $Y = 7840$  のポイントと座標軸を対応させることによって挿入している。

まずは平原古墳群全体に関してであるが、古墳は南尾根と北尾根の 2 箇所に分かれて分布する（地図 1）。これを南尾根グループ、北尾根グループとすれば、現在、我々が調査対象としているのは南尾根グループに所在する古墳である。なお、2 つの尾根をへだてる谷部には小さな沢が流れており、そこでは第六章で述べる 6 号墳葺石と同種の石材を採取することが可能である。

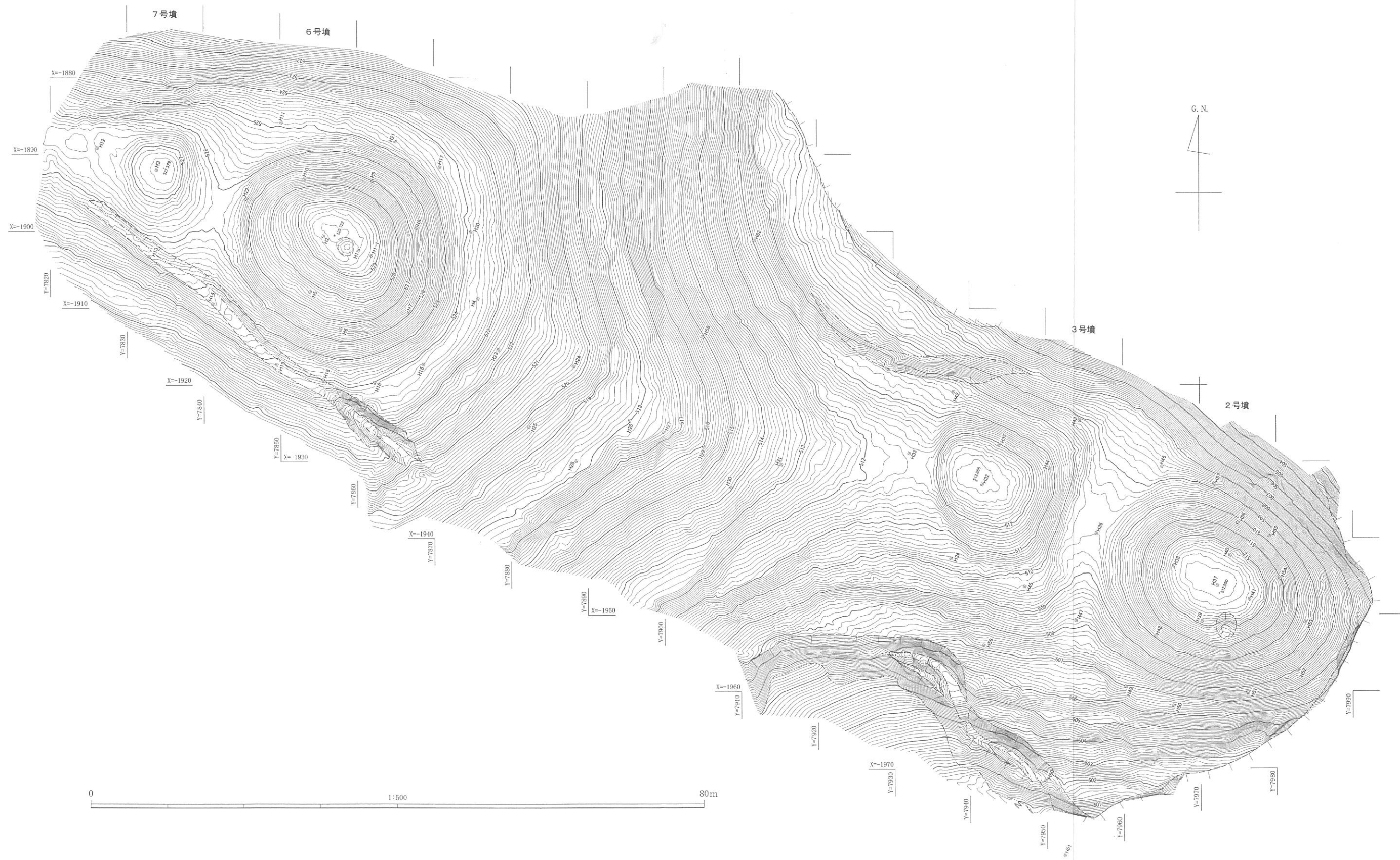
さて、南尾根グループに注目して 2 つの地図を比較すれば、従来の古墳分布図（地図 1）にはいくつかの訂正されるべき点があることがわかる。

まず、1 号墳の位置に誤りがあると考えられる。1 号墳は 1981 年の県道 213 号線（内牧坂梨線）拡幅工事の際に発見・調査され、その後完全に失われてしまったものである。今年度、熊本県教育委員会から調査時に作成された実測図の写しの提供を受けることができたが、そのなかに尾根筋と 1 号墳石棺の位置関係を示した略図も含まれていた。それによると、1 号墳石棺は丘陵尾根筋先端の地表を 1～2 m 程度削平した段階で発見されたようで、またその略図には道路と 1 号墳石棺の延長線上に 2 号墳と思われる丸い高まりが描かれていた。この略図と現地地形の情報をあわせて考えると、1 号墳石棺は道路と 2 号墳とのあいだ、すなわち 2 号墳の南東側に存在したと推測できる。現在、2 号墳の東から南にかけては大きく削平されて急峻な崖面となっているが、おそらくこの崖面形成工事によって 1 号墳石棺は失われたのであろう。したがって、地図 1 で示されているように 2 号墳の北側に 1 号墳が位置したとするのは誤りであると判断できる。なお、調査時作成の略図に表された 1 号墳石棺の垂直位置を根拠にすれば、これに墳丘が存在するとした場合、墓壙が深くなりすぎると思われる。そのため、1 号墳石棺には墳丘が存在しなかった可能性も想定されるべきである。

次に、4・5 号墳が存在するのかどうかである。4・5 号墳の存在については以前にも疑問符をつけたが（杉井 2013）、今回の測量調査においても 3 号墳と 6 号墳とのあいだに古墳の存在を認めることはできず、また古墳が削平されたような痕跡もみいだすことはできなかった。したがって、4・5 号墳は存在しないと判断する。

以上をふまえると、南尾根グループの古墳分布は次のように整理できる。まず、明確な墳丘を有す古墳が 4 基存在する。それは 2・3・6・7 号墳で、2・3 号墳および 6・7 号墳がそれぞれ 1 つのまとまりをなすように近接して分布する（地図 2）。後述のように 3 号墳は方墳の可能性があるが、それ以外は円墳である。2 号墳の南東には箱式石棺を主体部とする 1 号墳が存在したが、今は失われている。その墳丘の有無は明確でない。これらのほかに、6 号墳（平原 490 番地）から北西にやや離れた林道の西脇（平原 495 番地）で、1989 年に箱式石棺が不時発見され、埋め戻された（阿蘇町教委 1989）。墳丘を有さないと思われる。これには古墳番号が付されていない。ここまでをまとめると、南尾根グループにおいては、墳丘を有する古墳 4 基と箱式石棺墓 2 基の存在が確認されていることになる。なお、1982・1983 年に熊本短期大学（現熊本学園大学）文化財研究会によって測量調査された 2～4 号墳のうち、2・3 号墳は現在の 2・3 号墳に、4 号墳は 6 号墳に対応する。また、地図 1 に示されている 4・5 号墳は実際には存在しないため、現状では欠番としておく必要がある。

他方、北尾根グループに関しては、地図 1 にある 8 号墳（円墳）のほか、その北西側に 3 基の円墳が分布することを確認している。したがって、少なくとも 4 基の円墳が存在することは確実である。しかし、十分な分布調査を行うことができていないため、これですべてであるのかどうかは不明のままである。今後、綿密な分布調査を行う必要がある。（杉井）



第8図 平原古墳群南尾根グループ測量図